

第 23 回 賀茂地域広域連携会議

令和元年 12 月 26 日（木）13 時～15 時
下田総合庁舎 2 階第 3 会議室

次 第

1 協議事項

- (1) 教育委員会の共同設置専門部会、若者定住専門部会
- ・賀茂地域住民向けアンケートの実施について（速報）
 - ・「賀茂地域教育振興方針」等について

資料 1

資料 2

2 報告事項

- (1) 自治体戦略 2040 を受けた賀茂地域のすがたを踏まえた今後の取組
- 子育て・教育〈広域での学校再編〉〈学校施設活用による持続可能なコミュニティの実現〉
 - ・県内における組合立学校の状況
 - ・公共施設の課題と対応
 - 医療・介護〈外国人労働者の検討〉
 - ・特定技能・技能実習説明会の実施状況と今後の予定
 - 公共交通機関〈地域公共交通の活性化の検討〉
 - ・伊豆半島観光型 MaaS 実証実験及び自動運転の実施結果
 - 空間管理・防災〈集落支援員・地域おこし協力隊制度拡充の検討〉
 - ・県内市町の集落支援員の活用予定
- (2) 教育委員会の共同設置専門部会
- ・賀茂キャンパス活用推進委員会の設置
- (3) 公共施設の長寿命化、共同活用・管理（水道事業）専門部会
- ・水道法の改正と県の取組

資料 3

資料 4

資料 5

資料 6

資料 7

資料 8

資料 9

3 その他

- (1) 高校生の KAMO マルシェ 2019 の実施結果
- (2) 伊豆半島活性化プロジェクト（ポケモンプロジェクト）の取組について

資料 10

資料 11

第23回 賀茂地域広域連携会議 出席者名簿

令和元年12月26日（木）13時～15時
下田総合庁舎 2階第3会議室

○賀茂地域広域連携会議

所属・役職等	氏名	備考
静岡県特別補佐官	土屋 優行	
下田市長	福井 祐輔	
東伊豆町長	太田 長八	
河津町長	岸 重宏	
南伊豆町長	岡部 克仁	
松崎町長	長嶋 精一	
西伊豆町長	星野 淨晋	
静岡県議会議員 《参与》	森 竹治郎	欠席

○出席者

所属・役職等	氏名
下田市統合政策課長（幹事）	平井 孝一
東伊豆町企画調整課長（幹事）	村木 善幸
河津町企画調整課長（幹事）	後藤 幹樹
南伊豆町企画課長（幹事）	菰田 一郎
松崎町企画観光課長（幹事）	高橋 良延
西伊豆町まちづくり課長（幹事）	大谷 きよみ

（裏面あり）

○出席者

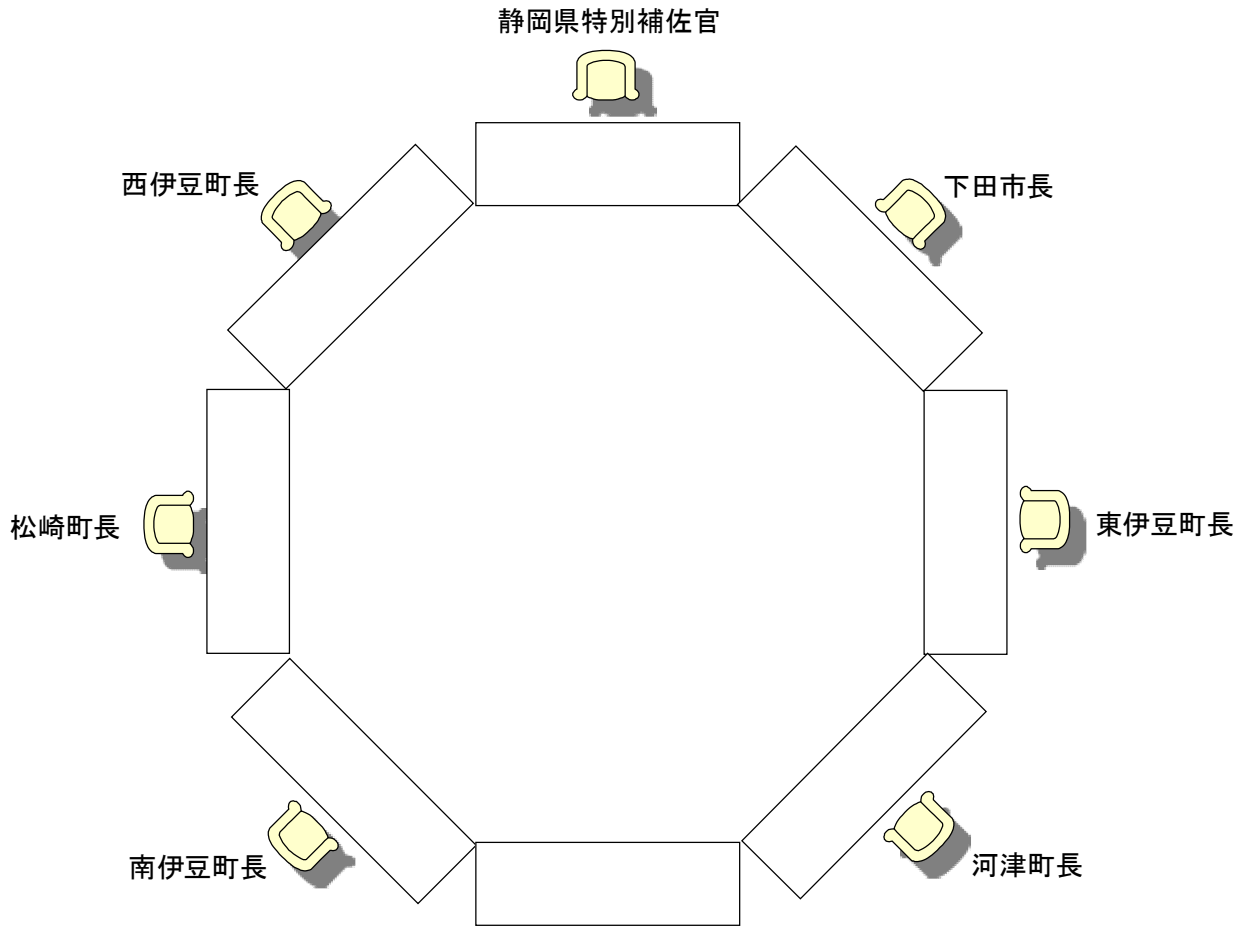
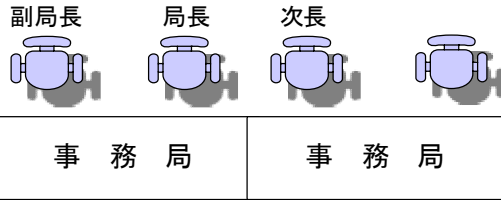
所属・役職等	氏名
美しい伊豆創造センター専務理事	植松 和男
美しい伊豆創造センター事務局長	瀧口 浩一
静岡県経営管理部地域振興局地域振興課長	山田 勝彦
静岡県経営管理部地域振興局市町行財政課長	山田 琢也
静岡県くらし・環境部環境局水利用課長	前島 正典
静岡県経済産業部就業支援局職業能力開発課長	増田 吉則
静岡県教育委員会事務局教育政策課長	中山 雄二
静岡県教育委員会事務局義務教育課課長代理	戸塚 康史
静岡県教育委員会静岡東教育事務所地域支援課参事（賀茂地域教育振興センター駐在）	山梨 美恵子
静岡県経営管理部地域振興局地参事（東部総合庁舎駐在）	片岡 達也
静岡県賀茂広域消費生活センター所長	野毛 勉
静岡県賀茂地域局参事兼危機管理課長	水野 武
静岡県下田財務事務所長	山下 哲宏
静岡県賀茂健康福祉センター所長	山下 正芳
静岡県賀茂健康福祉センター医監兼賀茂保健所長	本間 善之
静岡県賀茂農林事務所長	伊藤 晃
静岡県下田土木事務所長	森本 哲生
静岡県下田土木事務所次長兼企画検査課長	戸塚 博文

○事務局

所属・役職等	氏名
静岡県賀茂地域局長	山口 武史
静岡県賀茂地域局副局長兼賀茂危機管理監	松木 正一郎
静岡県賀茂地域局次長兼地域課長（幹事長）	柴 浩行
静岡県賀茂地域局地域課地域班長	飯田 雅之

第 23 回 賀茂地域広域連携会議 席次

令和元年 12 月 26 日 (木) 13 時～15 時
下田総合庁舎 2 階第 3 会議室



	教育政策課 義務教育課 高校教育課 中山課長 戸塚課長代理	市町行財政課 市町行財政課 職業能力開発課 山田課長 増田課長	幹 事
報道機関	教育振興七 水利用課 水利用課 山梨参事 前島課長	地域振興課 地域振興課 地域振興課 山田課長	幹 事
報道機関	美伊豆 美伊豆 地域振興局 瀬口事務局長 植松専務理事 片岡参事	賀茂健福 賀茂健福 賀茂健福 山下所長 本間医監	陪 席
報道機関	賀茂危機 消費生活 C 下田財務 水野参事 野毛所長 山下所長	賀茂農林 下田土木 下田土木 伊藤所長 森本所長 戸塚次長	陪 席

賀茂地域広域連携会議 テーマの検討状況

区分	テーマ (部会長)	開催時期及び 今後の予定	検討内容等
行政分野の連携	1	消費生活センターの共同設置 (県民生活課)	定期的に運営協議会を開催 ○「賀茂広域消費生活センター」を平成28年4月に設置
	2	教育委員会の共同設置 (教育総務課・義務教育課)	第12回 H29. 2. 6 第13回 5. 10 第14回 7. 31 第15回 11. 13 第16回 H30. 1. 31 第17回 5. 7 第18回 7. 23 第19回 9. 26 第20回 11. 29 第21回 H31. 2. 20 第22回 R1. 5. 20 第23回 R1. 8. 27 第24回 R1. 12. 12 ○「賀茂地域教育振興方針」を平成29年2月21日に策定 ○「賀茂地域教育振興センター」を平成29年4月に開所 (指導主事の共同設置) ○R1. 5/20 専門部会において、平成30年度の取組の確認、今後の検討事項、高校の魅力化について協議を実施 ○R1. 8/27 専門部会において、令和元年度の重点取組における情報共有及び「賀茂地域教育振興方針」の今後の方向性等について協議を実施 ○R1. 12/12 専門部会において、「賀茂地域教育振興方針」及び大学との連携等について協議を実施
	3	税の徴収事務の共同処理 (税務課・市町行財政課)	第5回 H29. 8. 17 第6回 9. 29 第7回 10. 24 今後、定期的に運営委員会を開催 ○「賀茂地方税債権整理回収協議会」を平成28年4月に設置 ○平成30年度以降の共同徴収の継続決定 (平成29年12月15日基本協定締結)
	4	監査事務の共同化 (市町行財政課)	第2回 H28. 7. 7 第3回 10. 7 第4回 11. 25 ○「監査のあり方」を踏まえた、監査事務様式・マニュアル等の共有化 ○「賀茂地域監査事務連絡会議」の設置
	5	災害時における人的・技術的支援体制の構築 (土木防災課)	第2回 H28. 4. 25 ○『賀茂地域「ふじのくに災害復旧支援隊」派遣要領』を平成28年8月に施行 ○『静岡県「ふじのくに災害復旧支援隊」派遣要領』を平成29年4月に施行 (拡大)
	6	地籍調査の共同実施 (農地計画課)	第6回 H28. 5. 24 第7回 7. 4 第8回 8. 9 第9回 8. 25 第10回 9. 26 ○「賀茂地域における地籍調査の共同実施に関する基本協定」を平成28年10月19日に締結し、「賀茂地域地籍調査協議会」を設置 ○共同実施を平成29年4月から開始
	7	地域包括ケアシステムの構築・運用 (長寿政策課)	第19回 H29. 6. 2 第20回 6. 14 第21回 6. 29 第22回 8. 9 第23回 8. 17 第24回 9. 15 第25回 10. 16 第26回 11. 15 ○「賀茂地域における介護事業所指定・指導監督の共同実施に関する基本協定」を平成29年12月15日に締結し、「賀茂地域介護事業所指定・指導監督推進協議会」を設置 ○県、賀茂地域1市5町及び民間 (3師会 (医師会、歯科医師会、薬剤師会)) が一体となり、「賀茂地域における住民の健康寿命の延伸と生活の質の向上を目指す基本協定」を平成30年2月19日に締結し、「賀茂地域健康寿命延伸等協議会」を設置
	8	技術的・専門的知識を要する事務の共同処理 (技術職員の共同利用) (市町行財政課)	第1回 H28. 7. 7 第2回 10. 7 第3回 11. 25 ○『「技術的・専門的知識を有する職員」の共同利活用～「技術的・専門的知識を要する事務」の共同処理マニュアル～』策定
	9	公共施設の長寿命化、共同活用・管理 (水道事業) (市町行財政課・水利用課)	第8回 H30. 1. 16 第9回 4. 17 第10回 7. 3 第11回～今後調整 ○市町が策定する「経営戦略・水道ビジョン」策定に係る共通仕様書を取りまとめ ○同策定のサポート

区分	テーマ (部会長)	開催時期及び 今後の予定	検討内容等
官民・民 の連携	10 伊豆半島クリーン作戦	第4回 H28. 6. 17 第5回 8. 26	○平成27年度に15ヵ所（7市6町）で清掃活動を実施（約1,500人参加） （平成28年度は美しい伊豆創造センターが自主事業化）
	11 伊豆半島食の祭典	第6回 11. 7 第7回 12. 27	○平成27年度に伊豆半島内の道の駅7箇所を含め、全10回、物産展を開催 （平成28年度は美しい伊豆創造センターが自主事業化）
	12 伊豆半島周遊ルートの開発	第8回 H29. 8. 3	○南伊豆・西伊豆地域公共交通活性化協議会と連携した観光周遊モデルルートの策定、オープンデータの公開等
	13 歴史的建造物の保存・活用における共同の景観まちづくり		○観光周遊サイト（デカケル JP）及び賀茂地区歴史的建造物地域資源調査結果の利活用
	14 若者定住 (賀茂地域局)	第1回 H29. 6. 6 第2回 7. 7 第3回 8. 2 第4回 9. 7 第5回 10. 5 第6回 12. 1 第7回 H30. 3. 16 第8回 4. 16 第9回 6. 13 第10回 7. 11 第11回 10. 12 第12回 12. 25 第13回 H31. 1. 28 第14回 3. 13 第15回 4. 23 第16回 R1. 5. 16 第17回 6. 25 第18回 8. 29 第19回 9. 26 第20回 12. 4	○「賀茂の子づくり」の理念を具現化した「高校生の KAMO マルシェ」「Wikipedia Town in 賀茂地域」「高校生が地域産業を学ぶインターンシップ」「賀茂地域ではたらくのりもの大集合！」を実施 ○移住相談受付窓口のワンストップ化を検討 ○相談初期受付時の対応機能の充実・強化 ○「賀茂地域1市5町の基本情報」のパンフレットを作成 ○転出入時任意アンケートの全市町導入（基本項目共通化） ○新成人に対する任意アンケートの全市町実施 ○第17～19回の専門部会において、「今後の若者定住専門部会のあり方」、「利便性の高い窓口づくり」、「賀茂の子づくり」及び「具体的な行動・推進装置づくり」を中心に検討・意見交換等を実施 ○移住相談窓口担当者向け相談スキルアップ研修会の開催（9/26） ○高校生の KAMO マルシェ 2019（11/4） ○第20回の専門部会において、賀茂地域住民向けアンケートの実施について（速報）

第 21 回、22 回賀茂地域広域連携会議の結果を踏まえた審議事項、報告事項の整理

大分野	第 21 回会議 (5/31)	第 22 回会議 (10/2)	その後の状況	第 23 回会議 (12/26)
人口減少と 財政運営	共通の電算システムの導入検討	○国の動向を注視 ○各市町の電算担当によるワーキンググループ で共通の電算システム導入を検討	○国の動向を情報共有するためのワーキンググループ設置に向けた調整	—
	独自課税の導入を検討	○各市町で対応	—	—
子育て ・教育	広域での学校再編 (組合立学校の設立等)	○教育専門部会で令和 2 年度から市町域を超えた 学校統合に関する研究を開始 ○南伊豆町長より質問「組合立学校に移行する 要件」の質問	○第 24 回教育専門部会で報告 ○第 30 回幹事会で報告 ・南伊豆町の質問に対する回答(教育政策課) ・県内の組合立学校の状況の報告(教育政策課)	報告事項 資料 3 県内における組合立学校の状況 (教育政策課)
	学校施設活用による持続可能な コミュニティの実現	○西伊豆町長より「空いた公共施設に対する県の 考え方」の質問	○第 30 回幹事会で報告 ・西伊豆町長の質問に対する回答(市町行財政課) ・公共施設の課題と県の対応などの報告(市町行財政課)	報告事項 資料 4 公共施設の課題と対応 (市町行財政課)
医療・ 介護	介護予防への注力	○賀茂地域健康寿命延伸等協議会で対応	—	—
	外国人労働者の検討	○外国人労働者は医療・介護分野に限らず検討 ○幹事会で検討し、必要に応じてワーキンググル ープを設置 ○東伊豆町長は特定技能「宿泊業」研修会を要望	○第 30 回幹事会で報告 ・全県の特定技能・技能実習制度説明会の実施状況の報告(職能課) ・特定技能制度分野別説明会(宿泊業)の開催予定の報告(2月、下田市内) (職能課)	報告事項 資料 5 特定技能・技能実習説明会の 実施状況と今後の予定 (職業能力開発課)
公共施設 ・道路	公共施設のエリアごとのあり方 ・長寿命化を推進 ・エリアごとの施設の在り方 (施設総量の適正化)	○幹事会で広域的な利用をしている施設に絞り、 今後のあり方を検討し、必要に応じてワーキング グループを設置	○第 30 回幹事会で協議し、ワーキンググループの設置を見送りを決定 ・下田市民文化会館の利用申請者の市町別内訳の報告(賀茂地域局)	—
し尿処理・ 生活排水	賀茂地区汚水処理連絡会による検討の 開始	○賀茂地区汚水処理連絡会で対応	○賀茂地区汚水処理連絡会は、年度内に 2 回開催済、年明けに 1 回開催 の予定(生活排水課)	—
公共交 通機関	地域公共交通の活性化の検討 ・交通事業者と連携して地域の公共交通 の活性化について検討 ・MaaS など ICT を活用した公共交 通機関の実現	○「南伊豆・西伊豆公共交通活性化協議会」及び 「東伊豆・中伊豆公共交通活性化協議会」で対応	○第 30 回幹事会で報告 ・伊豆半島観光型 MaaS 実証実験と自動運転の実施状況の報告 (地域交通課)	報告事項 資料 6 伊豆半島観光型 MaaS 実証実験及び 自動運転の実施結果(地域交通課)
空間管理 ・防災	集落支援員・地域おこし協力隊 制度拡充の検討	○集落支援員活用について、各市町の意向を確認 し、幹事会で報告 ○県の集落支援員の設置については各市町の意向 を踏まえ検討	○第 30 回幹事会で報告し、集落支援員の県設置の見送りを決定 ・R 2 年度に集落支援員を活用する予定が無い旨の報告(賀茂地域局) ・県内市町の集落支援員の活用予定の報告(地域振興課)	報告事項 資料 7 県内市町の集落支援員の活用予定 (地域振興課)
若者定住専門 部会		○今後の重点項目を「賀茂地域出身者の定住・定着 化の推進」とし、賀茂地域住民向けアンケート調 査等を実施し、施策展開を検討	○第 20 回若者定住部会で報告 ○第 30 回幹事会で協議 ・賀茂地域住民向けアンケート(速報)の報告(賀茂地域局)	協議事項 資料 1 賀茂地域住民向けアンケートの 実施について(速報) (賀茂地域局)
教育委員会の 共同設置専門 部会		○賀茂地域教育振興方針の方向性	○第 24 回教育専門部会で協議 ・賀茂地域教育振興方針の現方針の評価と次期方針の方向性と概要案を 確認(教育政策課)	協議事項 資料 2 「賀茂地域教育振興方針」等について (教育政策課)
		【賀茂キャンパス(賀茂地域大学交流拠点施設)】 ○3 大学拠点施設の下田総合庁舎における整備を 報告	○第 24 回教育専門部会で報告 ○第 30 回幹事会で報告 ・賀茂キャンパスの活用方針を説明し、調整状況を報告 (教育政策課)	報告事項 資料 8 賀茂キャンパス活用推進委員会の設置 (教育政策課)
公共施設の長寿 命化、共同活 用・管理専門部 会(水道事業)			○第 30 回幹事会で報告 ・経営戦略ヒアリングから見た賀茂地域の特性について報告 (市町行財政課・水利用課)	報告事項 資料 9 水道法の改正と県の取組 (市町行財政課・水利用課)

賀茂地域住民向けアンケートの実施について（速報）

（賀茂地域局地域課）

（要旨）

賀茂地域の人口減少や少子高齢化等の問題が更に深刻化する中、当地域が新たな価値を創造できる場所、新たな生き方を実現できる場所となるための施策を検討するため、平成 28 年度に賀茂地域の小・中・高等学校、全 35 校の最終学年（小 6、中 3、高 3）を対象としたアンケートを実施・公表した。

今回、前回の対象学齢の進級に伴い、それぞれ、中 3、高 3 となったため、新小 6 と合わせて当該児童・生徒を対象とした調査（みんなの未来づくりアンケート）を行い、このうち、設問 1「今から 15 年後、あなたは賀茂地域に住んでいたいですか？（二択）」の集計がまとまったため、速報として報告する。

なお、児童・生徒を対象としたみんなの未来づくりアンケートの調査結果の概要と併せて、児童・生徒の保護者等の地域住民に対するアンケートを実施している。

1 調査項目等

(1) 今回調査（令和元年度）

実施期間	令和元年 10 月 9 日～21 日
対象者	賀茂地域（1 市 5 町）の 20 小学校、12 中学校、3 高校のそれぞれ最終学年の児童生徒
対象者数	1,281 名
回答数	1,237 名 (内訳) 小学 6 年生 386 人 (男: 190 人 女: 196 人) 中学 3 年生 429 人 (男: 226 人 女: 203 人) 高校 3 年生 422 人 (男: 230 人 女: 192 人)
回答率	97%

(2) 前回調査（平成 28 年度）

実施期間	平成 28 年 12 月 13 日～21 日
対象者	賀茂地域（1 市 5 町）の 20 小学校、12 中学校、3 高校のそれぞれ最終学年の児童生徒
対象者数	1,442 名
回答数	1,410 名 (内訳) 小学 6 年生 457 人 (男: 239 人 女: 218 人) 中学 3 年生 505 人 (男: 276 人 女: 229 人) 高校 3 年生 448 人 (男: 230 人 女: 218 人)
回答率	98%

<児童生徒を対象とした「みんなの未来づくりアンケート」の項目>

○設問

1 今から 15 年後、あなたは賀茂地域に住んでいたいですか？（二択）※今回速報

2 その理由はどうしてですか？（自由筆記）

3 将来やりたい仕事や、なりたい職業を思い浮かべてください。その仕事は、賀茂地域にあると思いますか？（二択）

4 その仕事は具体的にどんな名前の職業ですか？（自由筆記）

5 もしもの話です。あなたの好きなことが賀茂地域で将来仕事になるとしたら、それはどんなことだといいいですか？（自由筆記）

6 最後にあなたの進路について教えてください。（中・高のみ、選択式）

2 今回の速報の概要

- 「将来、賀茂地域に住んでいきたいか」の問いに対し、小・中・高全体で「はい」が32%となり、前回調査の39%と比べて7ポイントの減少となった。
- 32%の内訳は、小6が37%、中3が23%、高3が35%で、中3層で「住んでたくない」志向が高まり、この傾向は、前回同様。
- 中3女子の「はい」の回答が18%となり、前回調査の24%から更に減少した。
- 前回小6から今回中3となった同一対象を比べると、「いいえ」の回答が、52%から77%へ25ポイントの増加となった。
- 前回中3から今回高3となった同一対象を比べると、「はい」の回答が、30%から35%へ5ポイントの増加となった。

3 今後の予定

- (1) 児童生徒を対象としたみんなの未来づくりアンケートの全ての項目の集計・分析の実施。
- (2) 今回の速報を反映し、児童生徒の保護者等地域住民を対象としたアンケートを実施(R2.1中旬まで)。
- (3) 児童生徒の保護者等地域住民を対象としたアンケート項目の集計・分析の実施。
- (4) (1)、(3)を合わせた分析の実施。
- (5) (4)の第24回賀茂地域広域連携会議への報告(年度内予定)

<参考>児童生徒の保護者等地域住民を対象としたアンケートの項目

○設問

- ① あなたは将来的にもっとたくさんの人に地元に住んでほしいと思いますか。(二択)
- ②-1 ①で「はい」と答えた方にお伺いします。その理由を1つ選んでください。(選択式)
- ②-2 ①で「いいえ」と答えた方にお伺いします。その理由を1つ教えてください。(選択式・自由筆記あり)
- ③ お子さんやお孫さんがいる場合にお伺いします。あなたのお子さんやお孫さんに地元で将来的に住んでほしいと思いますか？(二択)
- ④-1 ③で「はい」と答えた方にお伺いします。その理由を1つ選んでください。(選択式・自由筆記あり)
- ④-2 ③で「いいえ」と答えた方にお伺いします。その理由を1つ選んでください。(選択式・自由筆記あり)
- ⑤ ①または③で「はい」と答えた方にお伺いします。地域の将来に向け、あなたが努力できることを1つ選んでください。(選択式・自由筆記あり)
- ⑥ 3年前の調査では、趣味と生活の調和を図る「WORK-LIKE バランスが自慢の賀茂地域」が目指す目標とされました。もっとたくさんの人が、仕事をしながら、趣味の時間を充実することができるような賀茂地域にしていくために、あなたが最も有効だと考える手段を1つ選んでください。(選択式・自由筆記あり)
- ⑦ これまで、行政機関や民間では様々な取り組みを行ってきました。またあるといいな！こういう取り組みがあるといいな！という取り組みを教えてください。(自由筆記)
- ⑧ お住まいの市町の伸ばしたい個性や魅力を教えてください。(自由筆記)

賀茂地域の小中高校生(最高学年)

今から15年後、あなたは賀茂地域に住んでいたいですか？

5ポイント以上減少

5ポイント以上増加

区分	全体		男子		女子			
	実数	比率	実数	比率	実数	比率		
賀茂地区計	28年度	はい	551	39%	298	40%	253	38%
		いいえ	859	61%	447	60%	412	62%
		合計	1410		745		665	
	元年度	はい	392	32%	230	36%	162	27%
		いいえ	845	68%	416	64%	429	73%
		合計	1237		646		591	
	差引	はい	▲ 159	▲ 7P	▲ 68	▲ 4P	▲ 91	▲ 11P
		いいえ	▲ 14	7P	▲ 31	4P	17	11P
		合計	▲ 173		▲ 99		▲ 74	
下田市	28年度	はい	132	41%	80	43%	52	38%
		いいえ	193	59%	108	57%	85	62%
		合計	325		188		137	
	元年度	はい	76	28%	49	32%	27	23%
		いいえ	193	72%	102	68%	91	77%
		合計	269		151		118	
	差引	はい	▲ 56	▲ 13P	▲ 31	▲ 11P	▲ 25	▲ 15P
		いいえ	0	13P	▲ 6	11P	6	15P
		合計	▲ 56		▲ 37		▲ 19	
東伊豆町	28年度	はい	57	32%	29	31%	28	33%
		いいえ	120	68%	64	69%	56	67%
		合計	177		93		84	
	元年度	はい	37	27%	15	24%	22	30%
		いいえ	98	73%	47	76%	51	70%
		合計	135		62		73	
	差引	はい	▲ 20	▲ 5P	▲ 14	▲ 7P	▲ 6	▲ 3P
		いいえ	▲ 22	5P	▲ 17	7P	▲ 5	3P
		合計	▲ 42		▲ 31		▲ 11	
河津町	28年度	はい	39	33%	23	40%	16	27%
		いいえ	78	67%	34	60%	44	73%
		合計	117		57		60	
	元年度	はい	44	42%	26	53%	18	32%
		いいえ	61	58%	23	47%	38	68%
		合計	105		49		56	
	差引	はい	5	9P	3	13P	2	5P
		いいえ	▲ 17	▲ 9P	▲ 11	▲ 13P	▲ 6	▲ 5P
		合計	▲ 12		▲ 8		▲ 4	

(注)このページだけ、賀茂地区計の集計方法が異なります。
 賀茂地区計 = 各市町計 + 4高校計(P4)
 各市町計 = 各市町小6(P2) + 各市町中3(P3)

区分	全体		男子		女子			
	実数	比率	実数	比率	実数	比率		
南伊豆町	28年度	はい	56	44%	28	42%	28	46%
		いいえ	72	56%	39	58%	33	54%
		合計	128		67		61	
	元年度	はい	36	28%	24	36%	12	19%
		いいえ	94	72%	42	64%	52	81%
		合計	130		66		64	
	差引	はい	▲ 20	▲ 16P	▲ 4	▲ 6P	▲ 16	▲ 27P
		いいえ	22	16P	3	6P	19	27P
		合計	2		▲ 1		3	
松崎町	28年度	はい	44	43%	31	55%	13	28%
		いいえ	58	57%	25	45%	33	72%
		合計	102		56		46	
	元年度	はい	21	24%	13	30%	8	18%
		いいえ	67	76%	31	70%	36	82%
		合計	88		44		44	
	差引	はい	▲ 23	▲ 19P	▲ 18	▲ 25P	▲ 5	▲ 10P
		いいえ	9	19P	6	25P	3	10P
		合計	▲ 14		▲ 12		▲ 2	
西伊豆町	28年度	はい	42	37%	17	31%	25	42%
		いいえ	71	63%	37	69%	34	58%
		合計	113		54		59	
	元年度	はい	29	33%	14	32%	15	34%
		いいえ	59	67%	30	68%	29	66%
		合計	88		44		44	
	差引	はい	▲ 13	▲ 4P	▲ 3	1P	▲ 10	▲ 8P
		いいえ	▲ 12	4P	▲ 7	▲ 1P	▲ 5	8P
		合計	▲ 25		▲ 10		▲ 15	

賀茂地域の小学6年生

今から15年後、あなたは賀茂地域に住んでいたいですか？

5ポイント以上減少

5ポイント以上増加

区分	全体		男子		女子			
	実数	比率	実数	比率	実数	比率		
賀茂地区計	28年度	はい	221	48%	115	48%	106	49%
		いいえ	236	52%	124	52%	112	51%
		合計	457		239		218	
	元年度	はい	144	37%	79	42%	65	33%
		いいえ	242	63%	111	58%	131	67%
		合計	386		190		196	
	差引	はい	▲ 77	▲ 11P	▲ 36	▲ 6P	▲ 41	▲ 16P
		いいえ	6	11P	▲ 13	6P	19	16P
		合計	▲ 71		▲ 49		▲ 22	
下田市	28年度	はい	65	44%	38	46%	27	41%
		いいえ	83	56%	44	54%	39	59%
		合計	148		82		66	
	元年度	はい	47	36%	29	39%	18	31%
		いいえ	85	64%	45	61%	40	69%
		合計	132		74		58	
	差引	はい	▲ 18	▲ 8P	▲ 9	▲ 7P	▲ 9	▲ 10P
		いいえ	2	8P	1	7P	1	10P
		合計	▲ 16		▲ 8		▲ 8	
東伊豆町	28年度	はい	39	48%	15	38%	24	57%
		いいえ	43	52%	25	63%	18	43%
		合計	82		40		42	
	元年度	はい	23	41%	10	40%	13	42%
		いいえ	33	59%	15	60%	18	58%
		合計	56		25		31	
	差引	はい	▲ 16	▲ 7P	▲ 5	2P	▲ 11	▲ 15P
		いいえ	▲ 10	7P	▲ 10	▲ 3P	0	15P
		合計	▲ 26		▲ 15		▲ 11	
河津町	28年度	はい	25	45%	15	56%	10	34%
		いいえ	31	55%	12	44%	19	66%
		合計	56		27		29	
	元年度	はい	23	47%	12	57%	11	39%
		いいえ	26	53%	9	43%	17	61%
		合計	49		21		28	
	差引	はい	▲ 2	2P	▲ 3	1P	1	5P
		いいえ	▲ 5	▲ 2P	▲ 3	▲ 1P	▲ 2	▲ 5P
		合計	▲ 7		▲ 6		▲ 1	

区分	全体		男子		女子			
	実数	比率	実数	比率	実数	比率		
南伊豆町	28年度	はい	42	55%	21	49%	21	64%
		いいえ	34	45%	22	51%	12	36%
		合計	76		43		33	
	元年度	はい	16	26%	9	33%	7	20%
		いいえ	46	74%	18	67%	28	80%
		合計	62		27		35	
	差引	はい	▲ 26	▲ 29P	▲ 12	▲ 16P	▲ 14	▲ 44P
		いいえ	12	29P	▲ 4	16P	16	44P
		合計	▲ 14		▲ 16		2	
松崎町	28年度	はい	24	52%	16	64%	8	38%
		いいえ	22	48%	9	36%	13	62%
		合計	46		25		21	
	元年度	はい	15	36%	8	42%	7	30%
		いいえ	27	64%	11	58%	16	70%
		合計	42		19		23	
	差引	はい	▲ 9	▲ 16P	▲ 8	▲ 22P	▲ 1	▲ 8P
		いいえ	5	16P	2	22P	3	8P
		合計	▲ 4		▲ 6		2	
西伊豆町	28年度	はい	26	53%	10	45%	16	59%
		いいえ	23	47%	12	55%	11	41%
		合計	49		22		27	
	元年度	はい	20	44%	11	46%	9	43%
		いいえ	25	56%	13	54%	12	57%
		合計	45		24		21	
	差引	はい	▲ 6	▲ 9P	1	1P	▲ 7	▲ 16P
		いいえ	2	9P	1	▲ 1P	1	16P
		合計	▲ 4		2		▲ 6	

賀茂地域の中学3年生

今から15年後、あなたは賀茂地域に住んでいたいですか？

5ポイント以上減少

5ポイント以上増加

区分	全体		男子		女子			
	実数	比率	実数	比率	実数	比率		
賀茂地区計	28年度	はい	149	30%	93	34%	56	24%
		いいえ	356	70%	183	66%	173	76%
		合計	505		276	55%	229	45%
	元年度	はい	99	23%	62	27%	37	18%
		いいえ	330	77%	164	73%	166	82%
		合計	429		226	53%	203	47%
	差引	はい	▲ 50	▲ 7P	▲ 31	▲ 7P	▲ 19	▲ 6P
		いいえ	▲ 26	7P	▲ 19	7P	▲ 7	6P
		合計	▲ 76		▲ 50		▲ 26	
下田市	28年度	はい	67	38%	42	40%	25	35%
		いいえ	110	62%	64	60%	46	65%
		合計	177		106	60%	71	40%
	元年度	はい	29	21%	20	26%	9	15%
		いいえ	108	79%	57	74%	51	85%
		合計	137		77	56%	60	44%
	差引	はい	▲ 38	▲ 17P	▲ 22	▲ 14P	▲ 16	▲ 20P
		いいえ	▲ 2	17P	▲ 7	14P	5	20P
		合計	▲ 40		▲ 29		▲ 11	
東伊豆町	28年度	はい	18	19%	14	26%	4	10%
		いいえ	77	81%	39	74%	38	90%
		合計	95		53	56%	42	44%
	元年度	はい	14	18%	5	14%	9	21%
		いいえ	65	82%	32	86%	33	79%
		合計	79		37	47%	42	53%
	差引	はい	▲ 4	▲ 1P	▲ 9	▲ 12P	5	11P
		いいえ	▲ 12	1P	▲ 7	12P	▲ 5	▲ 11P
		合計	▲ 16		▲ 16		0	
河津町	28年度	はい	14	23%	8	27%	6	19%
		いいえ	47	77%	22	73%	25	81%
		合計	61		30	49%	31	51%
	元年度	はい	21	38%	14	50%	7	25%
		いいえ	35	63%	14	50%	21	75%
		合計	56		28	50%	28	50%
	差引	はい	7	15P	6	23P	1	6P
		いいえ	▲ 12	▲ 14P	▲ 8	▲ 23P	▲ 4	▲ 6P
		合計	▲ 5		▲ 2		▲ 3	

区分	全体		男子		女子			
	実数	比率	実数	比率	実数	比率		
南伊豆町	28年度	はい	14	27%	7	29%	7	25%
		いいえ	38	73%	17	71%	21	75%
		合計	52		24	46%	28	54%
	元年度	はい	20	29%	15	38%	5	17%
		いいえ	48	71%	24	62%	24	83%
		合計	68		39	57%	29	43%
	差引	はい	6	2P	8	9P	▲ 2	▲ 8P
		いいえ	10	▲ 2P	7	▲ 9P	3	8P
		合計	16		15		1	
松崎町	28年度	はい	20	36%	15	48%	5	20%
		いいえ	36	64%	16	52%	20	80%
		合計	56		31	55%	25	45%
	元年度	はい	6	13%	5	20%	1	5%
		いいえ	40	87%	20	80%	20	95%
		合計	46		25	54%	21	46%
	差引	はい	▲ 14	▲ 23P	▲ 10	▲ 28P	▲ 4	▲ 15P
		いいえ	4	23P	4	28P	0	15P
		合計	▲ 10		▲ 6		▲ 4	
西伊豆町	28年度	はい	16	25%	7	22%	9	28%
		いいえ	48	75%	25	78%	23	72%
		合計	64		32	50%	32	50%
	元年度	はい	9	21%	3	15%	6	26%
		いいえ	34	79%	17	85%	17	74%
		合計	43		20	47%	23	53%
	差引	はい	▲ 7	▲ 4P	▲ 4	▲ 7P	▲ 3	▲ 2P
		いいえ	▲ 14	4P	▲ 8	7P	▲ 6	2P
		合計	▲ 21		▲ 12		▲ 9	

賀茂地域の高校3年生

今から15年後、あなたは賀茂地域に住んでいたいですか？

5ポイント以上減少

5ポイント以上増加

区分	全体		男子		女子			
	実数	比率	実数	比率	実数	比率		
下田高校	⑳年度	はい	67	29%	32	26%	35	33%
		いいえ	162	71%	91	74%	71	67%
		合計	229		123	54%	106	46%
	元年度	はい	65	32%	32	28%	33	37%
		いいえ	138	68%	82	72%	56	63%
		合計	203		114	56%	89	44%
	差引	はい	▲ 2	3P	0	2P	▲ 2	4P
		いいえ	▲ 24	▲ 3P	▲ 9	▲ 2P	▲ 15	▲ 4P
		合計	▲ 26		▲ 9		▲ 17	
稲取高校	⑳年度	はい	50	53%	26	58%	24	49%
		いいえ	44	47%	19	42%	25	51%
		合計	94		45	48%	49	52%
	元年度	はい	41	41%	27	53%	14	29%
		いいえ	59	59%	24	47%	35	71%
		合計	100		51	51%	49	49%
	差引	はい	▲ 9	▲ 12P	1	▲ 5P	▲ 10	▲ 20P
		いいえ	15	12P	5	5P	10	20P
		合計	6		6		0	
南伊豆分校	⑳年度	はい	19	51%	12	60%	7	41%
		いいえ	18	49%	8	40%	10	59%
		合計	37		20	54%	17	46%
	元年度	はい	16	70%	11	65%	5	83%
		いいえ	7	30%	6	35%	1	17%
		合計	23		17	74%	6	26%
	差引	はい	▲ 3	19P	▲ 1	5P	▲ 2	42P
		いいえ	▲ 11	▲ 19P	▲ 2	▲ 5P	▲ 9	▲ 42P
		合計	▲ 14		▲ 3		▲ 11	
松崎高校	⑳年度	はい	45	51%	20	48%	25	54%
		いいえ	43	49%	22	52%	21	46%
		合計	88		42	48%	46	52%
	元年度	はい	27	28%	19	40%	8	17%
		いいえ	69	72%	29	60%	40	83%
		合計	96		48	50%	48	50%
	差引	はい	▲ 18	▲ 23P	▲ 1	▲ 8P	▲ 17	▲ 37P
		いいえ	26	23P	7	8P	19	37P
		合計	8		6		2	

区分	全体		男子	女子			
	実数	比率	実数	比率	実数	比率	
⑳年度	はい	181	40%	90	39%	91	42%
	いいえ	267	60%	140	61%	127	58%
	合計	448		230	51%	218	49%
元年度	はい	149	35%	89	39%	60	31%
	いいえ	273	65%	141	61%	132	69%
	合計	422		230	55%	192	45%
4 高校計 差引	はい	▲ 32	▲ 5P	▲ 1	0P	▲ 31	▲ 11P
	いいえ	6	5P	1	0P	5	11P
	合計	▲ 26		0		▲ 26	

進級した生徒の意識の変化

H28小6 → R1中3

今から15年後、あなたは賀茂地域に住んでいたいですか？

5ポイント以上減少

区分	全体		男子		女子			
	実数	比率	実数	比率	実数	比率		
賀茂地区計	⑳年度	はい	221	48%	115	48%	106	49%
		いいえ	236	52%	124	52%	112	51%
		合計	457		239		218	
	元年度	はい	99	23%	62	27%	37	18%
		いいえ	330	77%	164	73%	166	82%
		合計	429		226		203	
	差引	はい	▲ 122	▲ 25P	▲ 53	▲ 21P	▲ 69	▲ 31P
		いいえ	94	25P	40	21P	54	31P
		合計	▲ 28		▲ 13		▲ 15	
下田市	⑳年度	はい	65	44%	38	46%	27	41%
		いいえ	83	56%	44	54%	39	59%
		合計	148		82		66	
	元年度	はい	29	21%	20	26%	9	15%
		いいえ	108	79%	57	74%	51	85%
		合計	137		77		60	
	差引	はい	▲ 36	▲ 23P	▲ 18	▲ 20P	▲ 18	▲ 26P
		いいえ	25	23P	13	20P	12	26P
		合計	▲ 11		▲ 5		▲ 6	
東伊豆町	⑳年度	はい	39	48%	15	38%	24	57%
		いいえ	43	52%	25	63%	18	43%
		合計	82		40		42	
	元年度	はい	14	18%	5	14%	9	21%
		いいえ	65	82%	32	86%	33	79%
		合計	79		37		42	
	差引	はい	▲ 25	▲ 30P	▲ 10	▲ 24P	▲ 15	▲ 36P
		いいえ	22	30P	7	23P	15	36P
		合計	▲ 3		▲ 3		0	
河津町	⑳年度	はい	25	45%	15	56%	10	34%
		いいえ	31	55%	12	44%	19	66%
		合計	56		27		29	
	元年度	はい	21	38%	14	50%	7	25%
		いいえ	35	63%	14	50%	21	75%
		合計	56		28		28	
	差引	はい	▲ 4	▲ 7P	▲ 1	▲ 6P	▲ 3	▲ 9P
		いいえ	4	8P	2	6P	2	9P
		合計	0		1		▲ 1	

区分	全体		男子		女子			
	実数	比率	実数	比率	実数	比率		
南伊豆町	⑳年度	はい	42	55%	21	49%	21	64%
		いいえ	34	45%	22	51%	12	36%
		合計	76		43		33	
	元年度	はい	20	29%	15	38%	5	17%
		いいえ	48	71%	24	62%	24	83%
		合計	68		39		29	
	差引	はい	▲ 22	▲ 26P	▲ 6	▲ 11P	▲ 16	▲ 47P
		いいえ	14	26P	2	11P	12	47P
		合計	▲ 8		▲ 4		▲ 4	
松崎町	⑳年度	はい	24	52%	16	64%	8	38%
		いいえ	22	48%	9	36%	13	62%
		合計	46		25		21	
	元年度	はい	6	13%	5	20%	1	5%
		いいえ	40	87%	20	80%	20	95%
		合計	46		25		21	
	差引	はい	▲ 18	▲ 39P	▲ 11	▲ 44P	▲ 7	▲ 33P
		いいえ	18	39P	11	44P	7	33P
		合計	0		0		0	
西伊豆町	⑳年度	はい	26	53%	10	45%	16	59%
		いいえ	23	47%	12	55%	11	41%
		合計	49		22		27	
	元年度	はい	9	21%	3	15%	6	26%
		いいえ	34	79%	17	85%	17	74%
		合計	43		20		23	
	差引	はい	▲ 17	▲ 32P	▲ 7	▲ 30P	▲ 10	▲ 33P
		いいえ	11	32P	5	30P	6	33P
		合計	▲ 6		▲ 2		▲ 4	

教育委員会の共同設置専門部会

(県教育委員会)

(要 旨)

第24回の専門部会を開催し、「賀茂地域教育振興方針」及び大学との連携等について協議を行った。

1 会議の概要

(日時) 令和元年12月12日(木) 14時00分～16時40分
 (会場) 静岡県下田総合庁舎
 (議事) 「賀茂地域教育振興方針」等 / 大学との連携 / 情報共有等

2 協議内容

○「賀茂地域教育振興方針」について

賀茂地域教育振興方針の取組期間(H28～R1)が今年度で終了するのに伴い、現方針の進捗状況と成果の評価を行い、来年度以降の次期方針(R2～R5)について検討した。

(1) 現方針の評価

①進捗状況

取組の主な進捗状況は以下のとおり。

施策の柱		取組の主な進捗状況
1 幼保・小・中・高の一体となった学校教育	(1) 市町内・市町間の学校連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・賀茂地域教育振興センターの設置 ・指導主事及び幼児教育アドバイザーの共同設置 ・賀茂地域学校魅力化推進協議会の設置
	(2) 人口減少に対応した教育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット学習などICT教育の推進 ・共同による校務支援システムの導入
2 大学・大学院等との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・静大教職大学院「学校等改善支援研究員」制度の活用 ・静大・県大・文芸大との連携協定の締結 ・下田総合庁舎への賀茂キャンパスの整備
3 既存ストックの有効活用		<ul style="list-style-type: none"> ・余裕教室、遊休施設のリストアップ及び文部科学省サイトへの掲載 ・学校施設の開放
4 人的ネットワーク及び施設間連携の構築		<ul style="list-style-type: none"> ・賀茂地域教育サポーター推進組織の設立 ・図書館の相互利用協定の締結

②課題

賀茂地域教育振興方針に基づく取組は、ほぼ計画どおり実施することができた。

しかし、アウトカム目標として設定した「中学卒業時に『将来、賀茂地域に帰ってきたい』と思う子どもの割合」は、目標値の50%に対して、達成度は約半分の23%であり、方針に基づく取組が、現時点では成果につながっていない状況である。

(2) 次期方針の方向性と概要（案）

アウトカム目標の達成は、教育だけの力ではできないものではないが、教育の分野として、できることを実行していくことが必要である。

現在、幼児教育アドバイザーと指導主事との連携による教育内容の質の向上、賀茂キャンパスを起点とした大学の連携の進展など、将来につながる取組が進みつつある。教育で人を呼び込めるような地域づくりを目指し、次期方針の方向性等を提案する。

	方向性	今後の取組（柱）
1	賀茂地域の将来に向けて、地域全体で取組を進めていく一体感づくり	「賀茂の子」の理念の共有
2	子供たちが、「賀茂地域に帰ってきたい」と思えるよう、地域の魅力を伝える教育の充実	①幼児教育の推進（研修の充実等） ②活力ある小・中学校づくり（学校統合を含む。学力向上、キャリア教育等） ③高校の魅力化（魅力化協議会の推進） ④大学・大学院等との連携（フィールドワーク等推進、賀茂キャンパス活用）
3	子供たちが、地元に戻ってきて、学び続けることや地域に貢献できる環境づくり	④大学・大学院等との連携（地域づくり人材の育成） ⑤社会教育の魅力化（社会人コースと連携等）

* 「賀茂の子」の理念、及び具体的な取組内容は次回部会に向け検討

3 報告内容

○大学との連携（賀茂キャンパスの活用等）

賀茂キャンパスの概要（資料8参照）について情報共有するとともに、活用を想定している静岡大学、静岡県立大学と、具体的な取組についての意見交換を行った。

大学名	内容	取組の概要（現時点での想定）
静岡大学	地域を学ぶ社会人コースの設置	・地域活性化等に関心を持つ者を対象にしたコース ・今年度中にキックオフセミナーの開催を希望
静岡県立大学	観光コースでの活用	・賀茂地域の高校生に観光コースへの関心を惹起 ・将来地域に帰り活躍できる人材を養成 ・今年度中に各高校向けの説明会の開催を希望

4 今後のスケジュール（予定）

時期	予定	内容
2月頃	第25回専門部会	・「賀茂地域教育振興方針」の内容協議 ・令和元年度重点事項の活動のまとめ （大学との連携、高校の魅力化、幼児教育アドバイザー）

県内における組合立学校の状況

(教育委員会教育政策課、義務教育課)

1 経過

令和元年10月に開催された第22回賀茂地域広域連携会議において、組合立学校について照会があったことから、情報提供する。

2 組合立学校

組合立学校とは複数の市町村によって設けられた一部事務組合が設立する小中学校、高等学校である。

(一部事務組合：隣接する市町村がごみ処理や消防などの公共事業を実施するために設けられる組合)

3 法的な根拠

一部事務組合は、普通地方公共団体及び特別区が、その事務の一部を共同処理するため、その協議により規約を定め、都道府県の加入するものにあつては総務大臣、その他のものにあつては都道府県知事の許可を得て設けることができる。(地方自治法第284条第2項)

また、組織する地方公共団体の数を増減し若しくは共同処理する事務を変更し、又は一部事務組合の規約を変更しようとするときは関係地方公共団体の協議によりこれを定め、都道府県の加入するものにあつては総務大臣、その他のものにあつては都道府県知事の許可を受けなければならない。(地方自治法第286条第1項)

4 許可の要件

許可に当たっては一部事務組合の設立の手続きの適法性をはじめ、公益性や地域の振興など様々な観点から判断されるものであり、生徒数の減少が要件となるわけではない。

5 県内における組合立学校の設立例

県内では小学校1校、中学校2校の計3校が該当する。

区分	名称	学級数	児童生徒数	設立
小学校	牧之原市菊川市学校組合立 牧之原小学校	9	176	明治41年
中学校	牧之原市菊川市学校組合立 牧之原中学校	4	57	昭和29年
	御前崎市牧之原市学校組合立 御前崎中学校	14	374	昭和45年

公共施設の課題と対応

(経営管理部市町行財政課)

1 概要

10/2 賀茂地域広域連携会議において、「空いた公共施設について、防災面で活用したくても、国からは不要だと判断される。県の考え方を教えてほしい。」との意見があったことから、公共施設の課題と対応について整理した。

2 公共施設の適正管理に関する国通知 **別添 1**

平成 26 年 4 月 22 日付け総財務第 74 号「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進について」の中で、

… 早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点を持って、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現することが必要 …

との考え方が示されている。 ⇒ 廃止ありきではない

※学校施設においては、文部科学省がHP上で「廃校施設活用事例集」を公表。地域の実情やニーズに合わせた活用事例を紹介している。 **別添 2**

3 公共施設を取り巻く課題と県の対応

(1) 課題

区 分	市町に求められる対応
人口減少	人口減少を踏まえた既存施設のあり方を検討 (合併市町村においては、旧市町村単位で重複している既存施設のあり方を検討)
集約化・複合化	集落機能維持のため、個別施設の集約化や複合化を検討

(2) 国の支援等

・公共施設等適正管理推進事業債

充当率	交付税措置	事業期間	要件となっている計画
90%	30～50% (財政力に応じて)	R3 まで	・公共施設等総合管理計画 (除却のみ) ・個別施設計画 (集約化・複合化、長寿命化など)

・統一的な基準に基づく財務書類 (連結) の整備
→ 固定資産台帳等の情報を施設老朽化の現況把握等に活用

(3) 県の考え方と対応

長期的な視点から上記課題を捉えつつ、地域の実情に応じた検討が必要

→ 起債手続など財政運営に係る個別相談、地方公会計 (ストック情報) の活用について検討する場の設置 (行政経営研究会) 等による支援を実施

<参考>

住民 1 人当たりの行政財産 (本庁を除く建物) 面積 **別添 3**

総財務第 74 号
平成 26 年 4 月 22 日

各都道府県知事 }
各指定都市市長 } 殿

総務大臣 新藤 義孝

公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進について

我が国においては、公共施設等の老朽化対策が大きな課題となっております。地方公共団体においては、厳しい財政状況が続く中で、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることを踏まえ、早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現することが必要となっております。また、このように公共施設等を総合的かつ計画的に管理することは、地域社会の実情にあった将来のまちづくりを進める上で不可欠であるとともに、昨今推進されている国土強靱化（ナショナル・レジリエンス）にも資するものです。

国においては、「経済財政運営と改革の基本方針～脱デフレ・経済再生～」(平成 25 年 6 月 14 日閣議決定)における「インフラの老朽化が急速に進展する中、「新しく造ること」から「賢く使うこと」への重点化が課題である。」との認識のもと、平成 25 年 11 月には、「インフラ長寿命化基本計画」が策定されたところです。

各地方公共団体においては、こうした国の動きと歩調をあわせ、速やかに公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための計画（公共施設等総合管理計画）の策定に取り組みられるよう特段のご配慮をお願いします。

また、各都道府県においては、貴都道府県内市区町村（指定都市を除く。）に対しても本通知について速やかにご連絡いただき、その趣旨が徹底されますようお願いいたします。

廃校施設活用事例集

～未来につなごう～ みんなの廃校プロジェクト

文部科学省



廃校は、終わりではなく、始まり。

7,583校。これは、平成14年度から平成29年度までに廃校となった公立小・中・高等学校等の数です。文部科学省で実施した「廃校施設等活用状況実態調査(平成30年5月1日現在)」によると、現存する廃校施設等のうち、約75%が様々な用途に活用されています。

廃校については、地方公共団体にとって貴重な財産であることから、地域の実情やニーズにより有効活用することが求められています。

このような状況の中、文部科学省では、平成22年9月、「～未来につなごう～みんなの廃校プロジェクト」を立ち上げ、地方公共団体から希望のあった未活用の廃校等の情報について集約・公表すること等により、廃校施設の活用推進に取り組んできたところです。

近年、廃校施設の広大な敷地や教室の間仕切り等を生かして、社会教育施設や福祉施設、体験交流施設等に活用したり、さらには雇用促進を見込んで企業がオフィスを構えたりする等、地域の実情やニーズにあわせた廃校活用が進んでいます。

このたび、幅広い用途に活用されている全国各地の廃校活用事例を集めた事例集を作成しました。本事例集では、廃校の活用に至る経緯や廃校施設ならではのメリット等を紹介しています。

廃校は、アイデア次第で、どのような施設にも活用できます。本事例集が、今後、廃校活用を検討いただく上で、その一助になれば幸いです。

文部科学省



hikari no café 蜂巢小珈琲店 (栃木県大田原市)

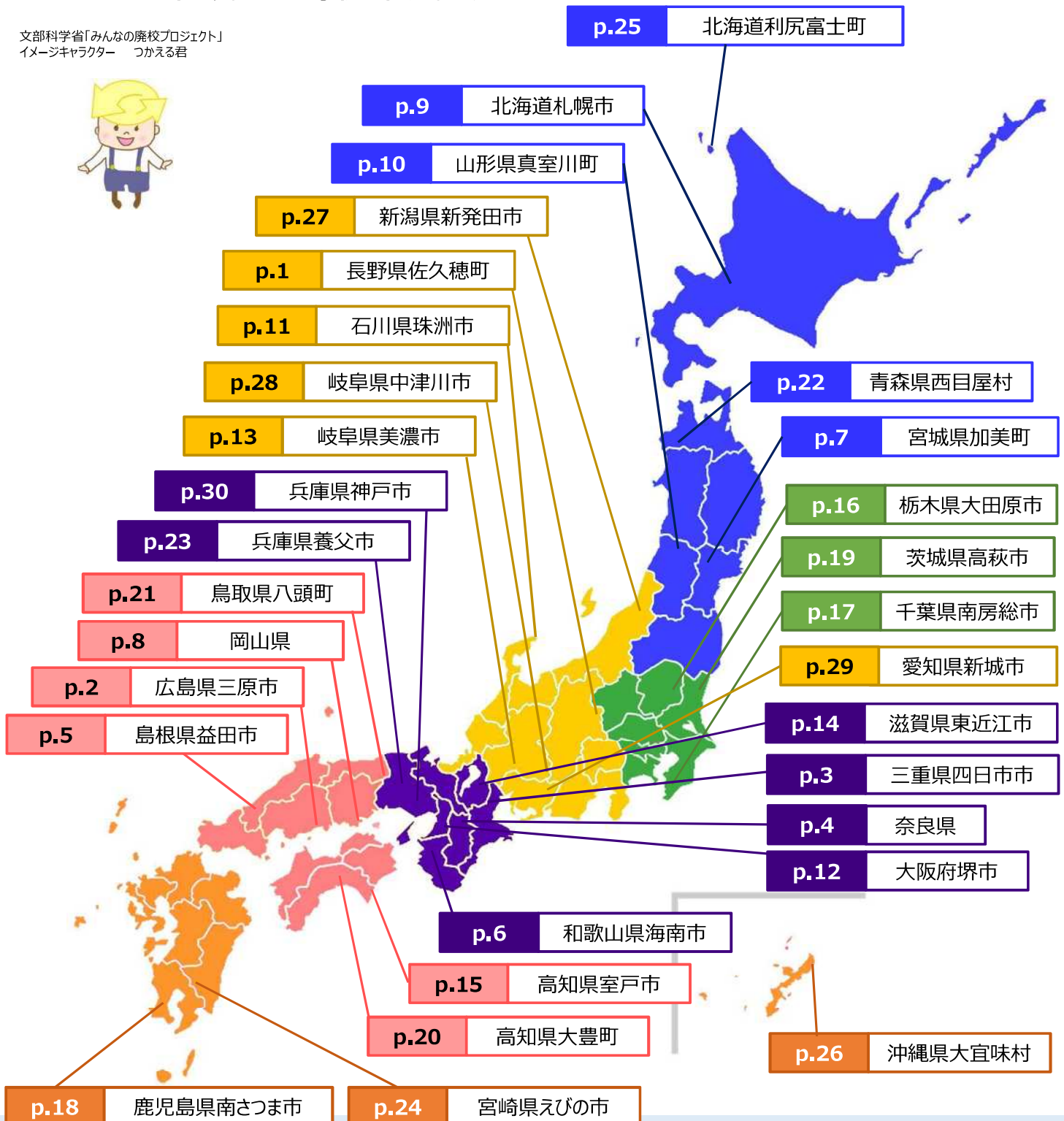
目次

事例紹介				1
1	子ども教育支援施設として活用	長野県佐久穂町	旧佐久中央小学校	1
2	認定こども園として活用	広島県三原市	旧久井南小学校	2
3	子育て支援等複合施設として活用	三重県四日市市	旧東橋北小学校	3
4	庁舎として活用	奈良県	旧耳成高等学校	4
5	社会教育施設として活用	島根県益田市	旧北仙道小学校	5
6	社会体育施設として活用	和歌山県海南市	旧第一中学校	6
7	音楽技能修得施設として活用	宮城県加美町	旧上多田川小学校	7
8	専門学校として活用	岡山県	旧県立福渡高等学校	8
9	大学のサテライトキャンパスとして活用	北海道札幌市	旧真駒内緑小学校	9
10	製材所及び大学研究施設として活用	山形県真室川町	旧及位中学校	10
11	大学の教育・研究拠点として活用	石川県珠洲市	旧小泊小学校	11
12	大学として活用	大阪府堺市	旧市立商業高等学校	12
13	文化施設として活用	岐阜県美濃市	旧片知小学校	13
14	文化研修施設として活用	滋賀県東近江市	旧政所小学校	14
15	水族館として活用	高知県室戸市	旧椎名小学校	15
16	障害者福祉施設として活用	栃木県大田原市	旧蜂巢小学校	16
17	診療所として活用	千葉県南房総市	旧七浦幼稚園・小学校	17
18	医療施設として活用	鹿児島県南さつま市	旧笠沙小学校	18
19	ドローン操縦士養成教習所として活用	茨城県高萩市	旧君田小学校	19
20	住宅として活用	高知県大豊町	旧大田口小学校	20
21	コワーキングスペースとして活用	鳥取県八頭町	旧隼小学校	21
22	木工品工場・喫茶等として活用	青森県西目屋村	旧西目屋小学校	22
23	醸造酢の加工工場として活用	兵庫県養父市	旧西谷小学校	23
24	とらふぐ養殖・加工施設として活用	宮崎県えびの市	旧飯野小学校高野分校	24
25	地域防災・複合交流施設として活用	北海道利尻富士町	旧本泊小学校	25
26	宿泊体験施設として活用	沖縄県大宜味村	旧塩屋小学校	26
27	青少年宿泊施設として活用	新潟県新発田市	旧赤谷小学校	27
28	複合合宿施設として活用	岐阜県中津川市	旧神坂小学校	28
29	レストランとして活用	愛知県新城市	旧菅守小学校	29
30	複合観光施設として活用	兵庫県神戸市	旧北野小学校	30

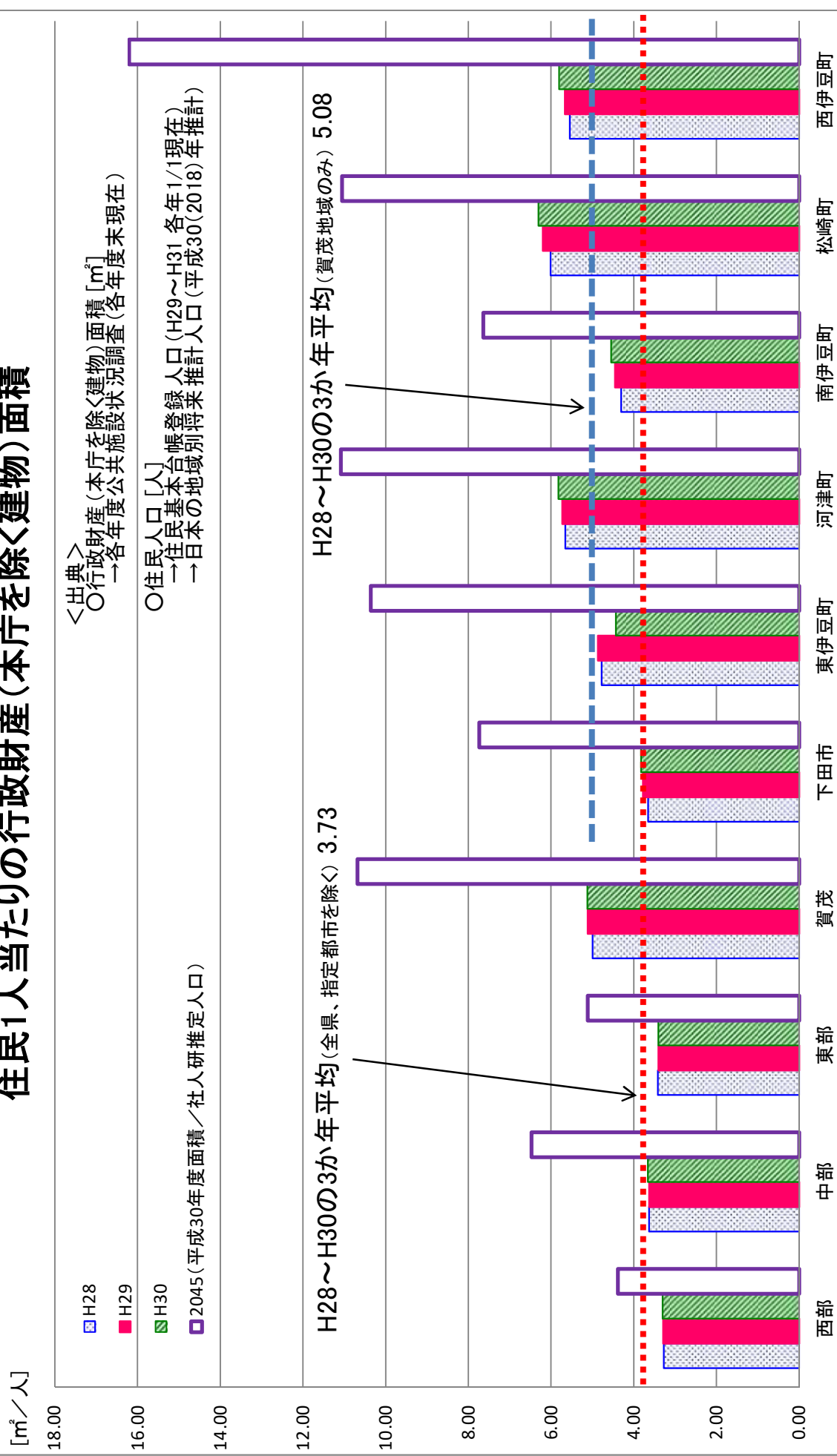
その他	31
廃校発生数・活用状況、廃校活用に関する手続について	31
廃校活用までの5 STEPS	32
廃校施設の活用に当たり利用可能な補助制度	33
文部科学省「みんなの廃校プロジェクト」	35

～様々な地域の事例を紹介します～

文部科学省「みんなの廃校プロジェクト」
イメージキャラクター つかえる君



住民1人当たりの行政財産(本庁を除く建物)面積



令和元年12月26日

特定技能・技能実習説明会の実施状況と今後の予定

(就業支援局職業能力開発課)

1 特定技能・技能実習制度説明会の実施状況

特定技能・外国人技能実習制度説明会を12会場で開催し、832人が参加した。

技能実習制度、特定技能制度の概要説明や県の取組紹介のほか、地域社会での共生の実現のため、外国人技能実習生と住民との共生に取り組む県内企業の先進的取組を紹介するセミナーを実施した。

日程・会場等		地域共生の取組紹介	参加者
浜松市	5月13日(月) 浜松商工会議所	きもと園芸(湖西市) 木本 忠義 氏	123人
三島市	5月29日(水) 三島市民生涯学習センター	(株)青木養鶏場(富士宮市) 青木 善明 氏	78人
静岡市	5月31日(金) ペガサート	平野ビニール工業(株)(磐田市) 平野 利直 氏	134人
沼津市	7月5日(水) 沼津市民文化センター	(株)青木養鶏場(富士宮市) 青木 善明 氏	70人
袋井市	7月25日(木) 袋井市総合センター	(福)天竜厚生会(浜松市) 久野 宗孝 氏	61人
吉田町	7月30日(火) 吉田町学習ホール	(株)田子重(焼津市) 小長井 和生 氏	72人
富士市	9月5日(木) ラ・ホール富士	(株)青木養鶏場(富士宮市) 青木 善明 氏	62人
浜松市	9月27日(金) 浜松商工会議所	(福)天竜厚生会(浜松市) 久野 宗孝 氏	64人
藤枝市	10月3日(木) 藤枝市産学官連携推進センター	(株)田子重(焼津市) 小長井 和生 氏	30人
静岡市	10月16日(水) 静岡市役所清水庁舎	(株)田子重(焼津市) 小長井 和生 氏	30人
下田市	10月21日(金) 下田総合庁舎	マックスバリュ東海(株)(長泉町) 平野 なぎさ 氏	16人
静岡市 (介護)	6月14日(金) 県総合社会福祉会館(静岡市)	特定技能制度(介護分野) 説明:厚生労働省社会・援護局	92人
合 計			832人

2 特定技能分野別説明会の開催

上記説明会の参加者の要望に応え、特定技能の分野別説明会を開催する。

宿泊分野については、賀茂地域広域連携会議の要望を受け、下田市で開催する。

- ・ 日時 令和2年2月26日(水)13時~受付、13時30分開会
- ・ 会場 下田総合庁舎 2階第3会議室
- ・ 講師 観光庁観光産業課観光人材政策室

特定技能制度（分野別）説明会の開催

参加費
無料

静岡県では、名古屋出入国在留管理局及び JITCO（国際研修協力機構）の協力を得て、経済団体や市町などと連携して、「外国人技能実習制度及び特定技能制度説明会」を開催し、合計 12 回の説明会には、832 人の方に御参加いただきました。参加された皆様からは、制度の概要がよく理解できたという御意見をいただく一方で、特定技能について、分野別にもっと詳しく知りたいという御要望も多数いただきました。また、9 月には静岡県でも特定技能外国人が誕生しましたことから、このたび、関係各省庁の協力を得て、下記のとおり、特定技能制度分野別説明会を開催します。

○日時、内容及び会場

分野	所管省庁	開催日	会場		定員
ビルクリーニング	厚生労働省	2/14 金曜日	静岡市	静岡市清水庁舎 ふれあいホール	120 人
① 素形材産業 ② 産業機械製造業 ③ 電気・電子情報関連産業 (製造 3 分野)	経済産業省	2/7 金曜日	三島市	三島市民生涯学習 センター 3 階 講義室	120 人
		2/3 月曜日	静岡市	静岡市清水庁舎 ふれあいホール	120 人
		2/12 水曜日	浜松市	浜松商工会議所会館	120 人
外食業	農林水産省	2/10 月曜日	静岡市	静岡県産業経済会館 大 会議室	120 人
飲食料品製造業	農林水産省	(調整中)	東部		
		1/20 月曜日	静岡市	静岡市清水庁舎 ふれあいホール	120 人
		1/23 木曜日	浜松市	浜松商工会議所会館	120 人
宿泊	国土交通省 観光庁	2/26 水曜日	下田市	下田総合庁舎	50 人
		(調整中)	浜松市		

(ビルクリーニング、外食業、飲食料品製造業及び宿泊)

(素形材産業、産業機械製造業、電気・電子情報関連産業)

13:00～13:30 受付
13:30～13:40 主催者挨拶
13:40～15:00 所管省庁 説明
15:00～15:30 質疑応答
15:30～15:45 休憩
15:45～16:15 特定技能外国人受入れ事例報告
(または、受入れのための注意事項、地域共生
先進事例報告)

13:30～14:00 受付
14:00～14:10 主催者挨拶
14:10～14:40 経済産業省 説明(製造3分野)
14:40～15:00 質疑応答
15:00～15:15 休憩
15:15～15:45 特定技能外国人受入れ事例報告
(または、受入れのための注意事項)
15:45～16:15 地域共生先進事例報告

内容や時間は講師の都合により、若干変更となる場合があります。
公共交通機関を御利用ください。また、お車でお越しの際は乗り合わせてお越しください。
各会場の駐車場の状況は、ホームページを御覧ください。
他分野についても、今後、関係省庁と調整の上で説明会を開催する予定です。

○参加対象者 「特定技能」による外国人材の受入れを検討している県内企業、団体及び登録支援機関 など

○申込み方法 静岡県職業能力開発課ホームページからお申し込みください。
「静岡県職業能力開発課」で検索ください。
あるいは、右の QR コードからアクセスしてください。



○主催、共催 主催: 静岡県
共催: 静岡県商工会連合会、静岡県中小企業団体中央会、一般社団法人静岡県経営者協会、
一般社団法人静岡県商工会議所連合会、浜松市、三島市、静岡市、賀茂地域局、
下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、
一般社団法人 静岡県ビルメンテナンス協会、静岡県飲食業生活衛生同業組合、
一般社団法人 静岡県食品衛生協会、静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合

○問合せ 静岡県 経済産業部 職業能力開発課 電話: 054-221-2823 メール: syokunow@pref.shizuoka.lg.jp

伊豆半島観光型 MaaS 実証実験及び自動運転の実施結果

(静岡県地域交通課)

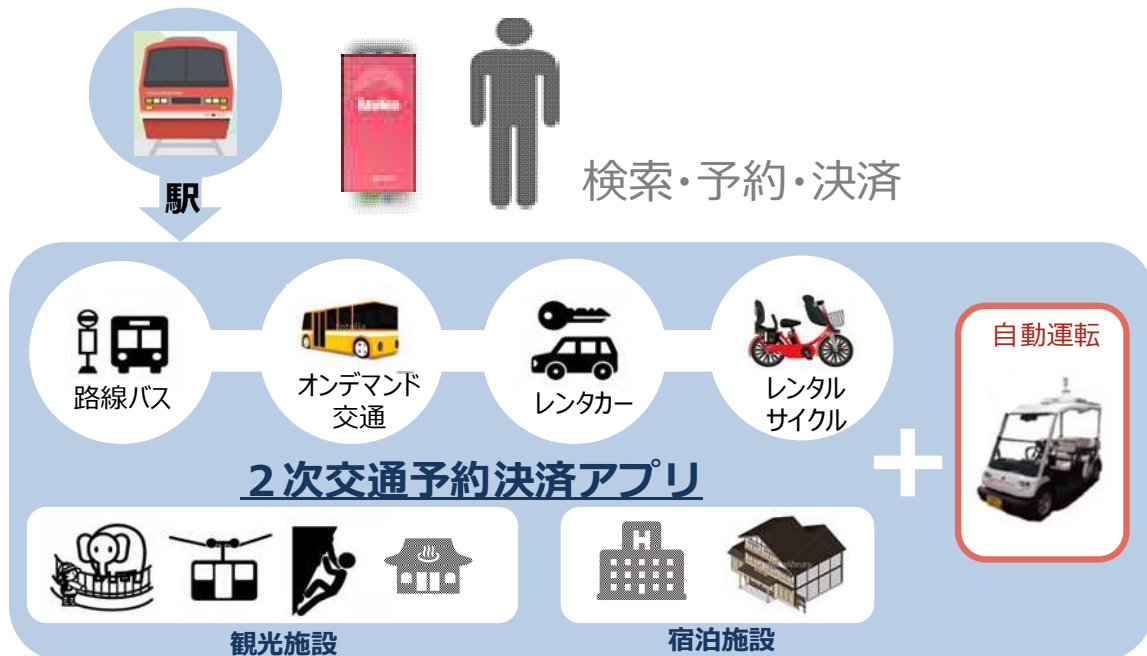
1 概 要

JR 東日本と東急は、2次交通（バス、タクシー、AI オンデマンド乗合交通、レンタカー等）を使用して、駅や空港から目的地までシームレスに移動できるサービス（MaaS）を提供するため、2019年の「静岡デスティネーションキャンペーン」開催時期及び12/1～3/10に伊豆地域で日本初の観光型 MaaS の実証実験を実施。

2 実証実験（内容：別紙参照）

伊豆地域の2次交通の検索・予約・決済できる機能と観光施設等を連携させることで、観光客が域内に点在する観光拠点をシームレスに移動できる仕組みを構築する。

<実験イメージ>



3 推進体制

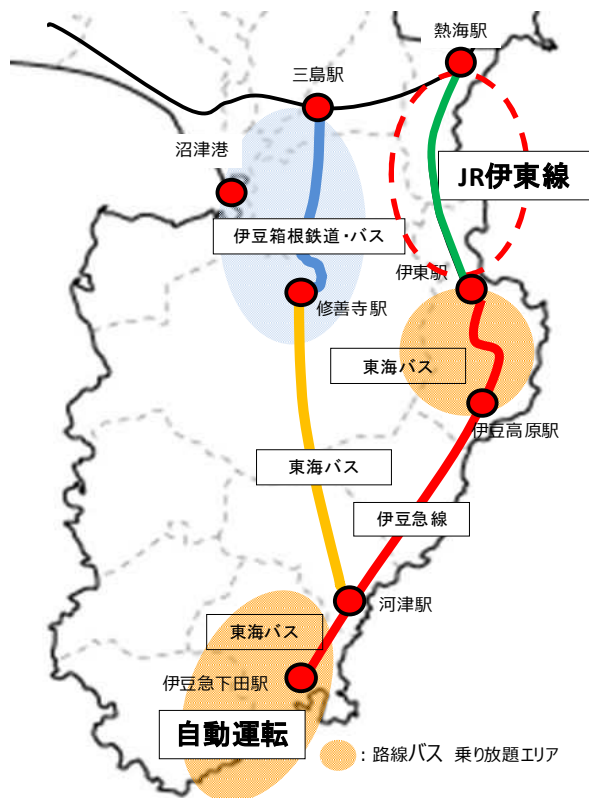
- ・2019年1月に実行委員会を設立（ジェイアール東日本企画が運営事務局を担当）
- ・名称「伊豆における観光型MaaS実証実験実行委員会」

委員長	(一社) 美しい伊豆創造センター	
副委員長	東急、ジェイアール東日本企画	
委員	(JR)	JR 東日本
	(システム)	楽天
	(交通事業者)	伊豆急行、東海バス、伊豆箱根鉄道、加森観光、伊豆総研、タクシー組合、東日本レンタリース
	(自治体)	静岡県
事務局	ジェイアール東日本企画	

※地域公共交通活性化協議会（構成：国・県・市町・交通事業者・県警・観光協会など）の枠組みを活用して地元調整を行う。

観光型MaaS実証実験

2019年9月17日
東急株式会社



	Phase 1	Phase 2
期間	2019年4月1日 ～6月30日	2019年12月1日 ～2020年3月10日
サービス名称	I z u k o	
対応言語	日本語・英語・繁体字	
経路検索機能	鉄道・バス	鉄道・バス・飛行機・船舶
デジタルチケット	デジタルフリーパス（企画乗車券）	
	2種	6種
	デジタルバス（観光施設入場券）	
	7種	12種（不正防止機能追加）
決済方法	クレジットカード	
オンデマンド交通（下田市街）	【停留所】 16か所（無料） ※運休10日間	【停留所】 27か所 （有料400円/日・デジタルバス対応） ※運休予定10日間（年末年始）

【フェーズ2の主な変更点】

- ・経路検索機能をはじめ使い勝手の改良
- ・商品内容の拡充、見直し
- ・オンデマンド交通の強化、自動運転の試行

●連携交通機関

モビリティ	事業者	エリア
鉄道	JR 東日本、伊豆急行、伊豆箱根鉄道	—
バス	東海自動車、伊豆箱根バス	伊豆急沿線、伊豆箱根沿線
タクシー	伊豆急東海、伊豆箱根、地元企業	
デマンド	伊豆急東海タクシー、栄協、ヒフミ	伊豆急下田駅周辺
自転車	伊豆急行など	伊豆高原駅周辺、 伊豆急下田駅周辺
レンタカー	ニッポンレンタカー	

●実績（12/1～12/16）



4 自動運転実証実験の概要

本事業は、県内各地において次世代自動車を活用した移動サービスの導入、検討を進める地域に対し、自動走行等の技術支援を行うことにより、①地域の交通課題（乗務員不足、高齢者の移動など）の解決策の検証及び社会受容性の確認、②次世代自動車関連の技術開発を促進する。

(1) 2018年度の実績と成果

実験概要：車両3種類、試乗モニター220名 2019年1月15日～25日実施

成果：自動運転社会に対する県民受容性の確認や、民間企業の自動運転技術の開発促進、3次元点群データや実験場としてのエコパの有効性を検証

(2) 2019年度実証実験の実施

地区	車両	検討概要	連携先(2大学, 11社)
1) 過疎地域 松崎町	超小型 タイプ (2人乗)	【長八美術館⇄八木山地区】 時期) 2019. 11/25～12/5 (約100人試乗) ・狭隘道路の走行技術を検証 ・住民移動を支える新たな交通サービスの検討	・東海自動車(交通) ・タジマEV(車両)
2) 郊外 下田市	カート型 タイプ (4人乗)	【道の駅⇄下田駅⇄メディカルセンター】 時期) 2019. 12/9～12/19 ・伊豆MaaS実験との連携 ・観光客と住民の快適な移動を実現するサービスの検討	・東急電鉄(交通) ・伊豆急東海タクシー ・名古屋大(車両)
3) 都市部 沼津市	バス型 タイプ (16人乗)	【沼津駅⇄沼津港】 時期) 2020. 1/22～1/31 ・新車両による交通システム検討 ・バス走行に合わせた優先信号制御	・伊豆箱根バス(交通) ・群馬大(車両) ・小糸製作所(信号)
4) 実験場 袋井市	バス型 タクシー型 超小型	【エコパ園内】 時期) 2020. 2月～ ・企業の技術開発の促進 ・実証フィールド提供	・上記企業 ・コンチネンタルオートモーティブ

※その他連携企業(全地区共通)・ダイナミックマップ基盤(自動運転走行用地図)
・ヴァル研究所(スマホアプリ) ・損保ジャパン日本興亜(自動運転保険)

(3) 結果速報(松崎地区)

実験期間 11/25～12/5

試乗者数 108名(主に地域住民、交通事業関係者など)
(72%が60歳以上 75%が松崎町民)

回答項目 乗った感想 速度への感想 安定性 カーブ 不安要素
道路環境との調和 など
車両への感想 自動運転社会への期待など

集計結果 現在集計中

実験協力 南伊豆西伊豆地域公共交通活性化協議会(市町、事業者)

しずおか自動運転ShowCASEプロジェクト(2018-2020)

目的

自動運転等の次世代技術を活用した移動サービスによる地域交通の課題解決の検証
(運転手不足、過疎地域等高齢者への移動支援、公共交通ICT化等への対応)

EV等、次世代自動車及び自動運転車両の研究による県内企業の技術開発を促進

事業概要

2018

1 点群座標データの活用

県管理道路1,000km以上の3次元点群座標データのオープンデータ化⇒全国初
ダイナミックマップ基盤(株)と静岡県との協定締結(2017.11)
・県有データから高精度3Dマップ化(自動運転活用)に成功



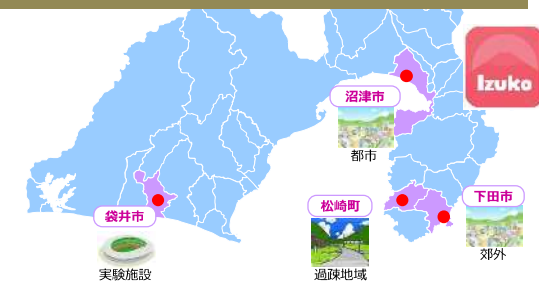
2 実験車両(高精度3Dマップ走行) in Ecopa



2018年度使用車両

2019~

3 実証実験地区(4箇所 公道3箇所)



交通事業者

×

地域(市町・住民)

×

県・県警・企業・大学

新たなモビリティサービス
MaaS
の検討・導入

しずおか自動運転ShowCASEプロジェクト(2018-2020)

2019~
実験概要

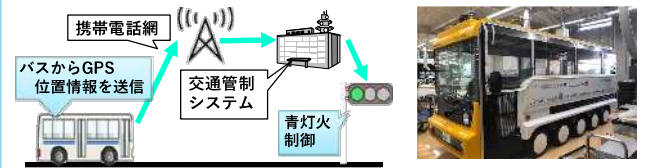
①エコパ(袋井市) 実験場

【実験】2020.12月~2月
【特徴】①オープンフィールドの提供
②企業の開発と連携を促進



②沼津駅~沼津港(沼津市) 都市部

【実験】2020.1/22~1/31
【特徴】①インフラ連動型の交通システム検証
②GPSを用いた自動運転バス優先信号制御



③集落~中心地(松崎町) 過疎地

【実験】2019.11/25~12/5
【特徴】①道路狭隘部での走行技術検証
②過疎地域での移動サービス導入検討



④伊豆急下田駅周辺(下田市) 郊外部

【実験】2019.12/9~12/19
【特徴】①伊豆MaaSとの連携・連動
②A I デマンド交通サービスの導入



国からの制度支援等

先行モデルの選定(内閣府・総務省・国交省)

(1)スマートシティプロジェクト (2)近未来技術等社会実装事業 (3)新モビリティサービス推進事業

産学官連携による実証実験への参画

連携企業大学(技術連携・共同開発)



県内市町の集落支援員の活用予定

(県経営管理部地域振興課)

1 概 要

人口減少と高齢化の進展に伴う集落の問題を住民が自らの問題と捉え、解決に向けた施策を実施するために、県内では静岡市、浜松市及び小山町で集落支援員が活動している。

[集落支援員]

- ・ 地方自治体が、地域の実情に詳しい人材で、集落対策の推進に関してノウハウ・知見を有した人材を「集落支援員」として委嘱。
- ・ 集落への「目配り」として、集落の状況把握、集落点検の実施、住民同士・住民と市町の間での話し合いの促進等を実施。
- ・ 集落支援員の活動、集落点検、話し合いの実施に要する経費が特別交付税の対象。(支援員 1 人あたり専任の場合 350 万円/年、兼任の場合 40 万円/年を上限)

2 県内の活用状況と今後の予定

市町名	R 1	R 2	配置状況・業務内容
静岡市	8 人	8 人	【配置状況】 井川地区、梅ヶ島地区、大河内地区、玉川地区、大川地区、清沢地区、両河内地区、由比入山地区の 8 地区に 1 名ずつ計 8 名 【業務内容】 集落内の会合への出席、施設点検、独居老人の訪問等を実施し、市へ報告
浜松市	3 人	3 人	【配置状況】 佐久間地区、水窪地区、龍山地区に 1 名ずつ計 3 名 【業務内容】 地域おこし協力隊と連携して農業体験等を実施 ※集落支援員が地元農家との調整、地域おこし協力隊が体験者の受入れ等を実施
小山町	3 人	2 人	【配置状況】 町内全域で 3 名 【業務内容】 ・ 農家支援や都市公園の施設点検及び維持管理 【その他】 ・ 農家支援については今年度までで完了。(来年度以降は雇用予定なし。) ・ 都市公園の施設点検等は 1 名専任、1 名兼任。来年度は 2 名専任となる見込み。

3 参考：全国での活用事例

- ・平成30年度に全国で活動した集落支援員は、専任の集落支援員が1,391人（前年比+196人）、兼任の集落支援員が3,497人（前年比+177人）となっている。

《事例1 和歌山県^{きみのちよう}紀美野町》

人口：8,746人 世帯数：4,232世帯 高齢化率：44.2%
集落支援員9名（H30）

【概要】

- ・看護師資格を持った支援員2名が定期訪問等の高齢者支援活動を行う。

【活動内容】

- ・独居高齢者、要配慮者宅を訪問して、生活や身体状況を聞き取り、困りごとや相談があれば関係機関への橋渡しを行う。
- ・民生員、児童委員と協力し、高齢者等の情報を共有して、見守り体制を強化する。
- ・診療所の医師と連携し、高齢者の緊急時の搬送体制を確立している。

【ポイント】

- ・交通機関が脆弱で病院に行きにくい高齢者が多いという地域の実情に対応するため、集落支援員を配置することで細かい目配りを行っている。

《事例2 長野県^{まつかわまち}松川町》

人口：12,718人 世帯数：4,434世帯 高齢化率：32.1%
集落支援員8名（H30）

【概要】

- ・地域おこし協力隊とともに、集落住民の生きがいづくりや誇りの醸成に取り組む。

【活動内容】

- ・交流人口の拡大に向けて、外部有識者や住民で構成する観光交流地域づくり戦略会議のコーディネートを実施する。
- ・集落独自の価値を体感できる滞在交流プログラムを住民とともに構築している。

【ポイント】

- ・地域おこし協力隊とともに活動することで、地域内外の視点を活かし、より魅力ある滞在プログラムとなるよう取り組んでいる。

賀茂キャンパス活用推進委員会の設置

(賀茂地域局地域課)

1 概要

賀茂地域での人づくり、人材交流の活性化、まちづくりや地域の振興を目的とした「静岡大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学と賀茂地域 1 市 5 町の相互連携に関する協定」（平成 30 年 12 月 18 日締結）に基づく交流・連携をさらに促進するため、賀茂キャンパス(賀茂地域大学交流拠点施設)の整備と利活用及び持続可能な取組に向けた体制整備を行う。

2 賀茂キャンパスの概要

- 施設名称：賀茂キャンパス（賀茂地域大学交流拠点施設）
- 場 所：下田総合庁舎別館 2 階第 8 会議室（旧賀茂保健所執務室）
- 管 理 者：賀茂地域教育振興センター（静岡教育事務所）

名称	面積	旧名称
メインスペース	256 m ²	第 8 会議室
ミーティングルーム	37 m ²	旧保健所長室
物品庫	27 m ²	旧会議室
—	320 m ²	

※現在の第 8 会議室を改修、机・椅子等の新調で対応

3 賀茂キャンパス活用推進委員会の設置

利活用及び持続可能な取組に向けた体制整備（プラットフォーム構築）として、賀茂キャンパス活用推進委員会の設置に向けて、第 24 回教育委員会の共同設置専門部会（12 月 12 日）において、設置規約、構成員及び運営方法等について協議を行い合意を得た。

なお、同推進委員会は、協定に基づく 3 大学との交流・連携のみならず、賀茂地域 1 市 5 町がそれぞれ連携・協定している各大学等、市民活動団体、高等学校及び幼保こ小中等との交流を促進し、賀茂の子づくり・地域振興・観光活性化・人口減少対策等に係る取組を推進する。

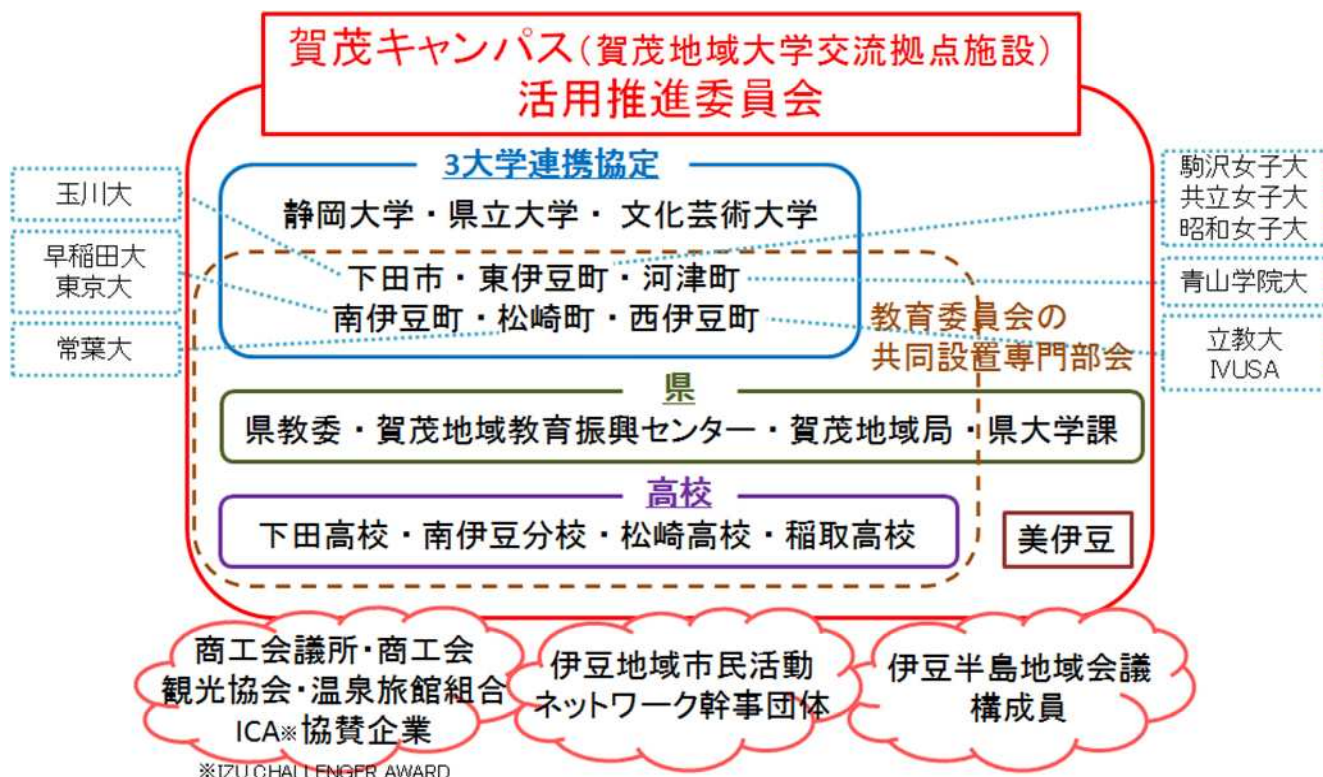
<賀茂キャンパスの活用項目>

項目	備考
開所記念講演	静岡大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学の基調講演を個別開催
社会人コース	静岡大学「地域づくりを学ぶ社会人コース」をベースに開催
観光コースの利活用	静岡県立大学・静岡文化芸術大学等による賀茂地域のホテル・旅館を実践の場として活用など
フィールドワーク	各大学のゼミ活動等
大学間交流・高校交流	各市町が連携している大学等、大学説明会、オープンスクール
地域交流	NPO、児童・生徒、地域コミュニティ、民間、行政など
地域体験	1 次産業等の体験、観光資源（ジオ等）の体験、観光業（宿泊施設・ガイド）インターンシップ、文化伝統活動の継承など

<運用方法案>

- ・ 会議の開催（会場は今後調整）は、通常年1回程度を想定し、当年度の年間スケジュール及び昨年度実績の情報共有、意見交換を実施する。
- ・ その他、必要に応じて個別に現地での協議を実施する。（賀茂地域で実施される社会人コース、フィールドワーク、ゼミ合宿等の機会を想定）
- ・ 随時の情報共有や地域における要望集約、調整等については、賀茂地域広域連携会議教育委員会の共同設置専門部会又は若者定住専門部会において協議、検討する。

<推進体制のイメージ>



4 スケジュール（案）

時期	内容
令和元年 11月 19日	静岡大学へ状況説明
令和元年 11月 27日	文芸大へ状況説明
令和元年 12月 2日	県大へ状況説明
令和元年 12月 12日	第24回教育委員会の共同設置専門部会 (賀茂キャンパス活用推進委員会設置準備会)
令和元年 12月 25日	活用に向けた意見交換会
令和元年 12月 26日	第23回賀茂地域広域連携会議（内覧会）
令和2年 1月 24日	開所式 基調講演（静岡大学） 賀茂キャンパス活用推進委員会キックオフ会議
令和2年 2月以降	基調講演（静岡県立大学、静岡文化芸術大学）

水道法の改正と県の取組

(経営管理部市町行財政課、くらし・環境部水利用課)

1 水道法の改正等

(1) 改正水道法 (H30. 12. 12 公布、R1. 10. 1 施行)

県 : 広域連携を推進するよう努めなければならない

市町 : 水道事業の基盤強化に努めなければならない

(2) 『水道広域化推進プラン』の策定要請通知 (H31. 1. 25)

県 : 『水道基盤強化計画』を見据え、令和 4 年度末までにプランを策定すること

市町 : プランを踏まえ、県とともに広域化に取り組むこと

※ プランに基づく広域化の経費については、地方財政措置を講ずる

(3) 国の『水道の基盤を強化するための基本的な方針』(R1. 9. 30)

県 : 『水道基盤強化計画』を策定し、実施すること

市町 : 県の施策に協力すること

2 県の取組

(1) 現在までの取組状況

ア 賀茂地域 1 市 4 町で財務会計システムのクラウド共同利用を開始 (H31. 4～)

イ 本年度、県内全市町を対象に経営戦略のヒアリングを実施

23 市町で、経営戦略を策定済み。

・ 施設及び管路の耐用年数を延長して更新時期を先送りする計画が大半

・ 料金収入の減少分は、単純に水道料金の値上げで対応する計画が多い

(2) 今後の予定

令和 4 年度末の『水道広域化推進プラン』の策定に向けて、令和 2～3 年度に県内 5 圏域で水道広域化シミュレーションを実施する。

(賀茂地域は、令和 3 年度に実施予定)

ア シミュレーションの実施に当たっては、平成 28 年度に実施した賀茂地域水道広域連携検討事業の結果を踏まえ、更なる連携の可能性について検証する。

イ シミュレーション実施の過程において、各市町の経営分析を行うが、その基礎となる経営戦略における課題対応案を検証し、賀茂地域の特性を把握すると共に、今後の経営戦略の見直しに向けた必要な助言を行う。

これまでの取組経過

年度	内 容
H28	<p>① 経営及び施設の連携プランの検討</p> <p>総務省の「新たな広域連携促進事業」を活用し、水道事業専門コンサルに調査業務を委託し、各市町の経営分析を基に実施した成果について報告</p> <p>ア 各市町の水道事業の将来財政収支等の推計</p> <p>イ 地域全体の水道施設情報を同一基準で整理した「広域水道地図」の作成</p> <p>ウ 地域の実情にあった連携プランの提案</p> <p>② 「経営戦略・水道ビジョン共通仕様書」の作成</p> <p>「経営戦略」、「水道事業ビジョン」を策定する際又は委託発注する際に必要となる盛り込むべき項目や内容等を網羅した「共通仕様書」を作成</p> <p>③ 水質検査の事務共同化に係る検討</p> <p>市町が個々に委託している水質検査の事務の共同化について検討</p>
H29	<p>① 連携プランに基づく事務の共同化に係る勉強会</p> <p>料金徴収事務の共同化の検討</p> <p>電力の小売自由化に伴う対応、物品の購入、料金システム・財務会計システムの共同利用、料金徴収事務の共同発注、漏水調査の共同発注について、可能性を検討</p> <p>⇒ <u>水道事業財務会計システムのクラウド化については、実現可能性が高いとして、導入に向けた検討及び必要な準備を実施</u></p>
H30	<p>① 財務会計システムのクラウド共同利用</p> <p>1市4町において、財務会計クラウドシステムの共同運用開始</p> <p>② 実効性のある経営戦略の策定に向けた助言（全県的取組）</p> <p>H28に策定した共通仕様書に基づく経営戦略の策定内容を助言</p>
R元	<p>① 経営戦略ヒアリングの実施（全県的取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既に策定した経営戦略の内容について確認し、今後の見直しに向けた助言 ・ 各市町での水道事業に係る実施体制（職員体制、委託の状況など）について確認

高校生の KAMO マルシェ 2019 の実施結果

(賀茂地域局地域課)

1 概 要

賀茂地域への興味を改めて喚起・醸成し、将来、賀茂地域に戻ってきたいと思う「賀茂の子づくり」の実践の場、また、文化系部活動等の活躍の場を創出し、地域による高校の魅力化の機運醸成を図る場として、実際に販売し利益を得るなどの職業体験を行える場及び賀茂地域を一般の方に PR する機会を提供した。

2 日 時 令和元年 11 月 4 日 (月・祝) 午後 9 時 30 分から午後 3 時まで

3 会 場 河津バガテル公園 (河津町峰 1073)

4 来場者数 (有料区間への入場) : 449 名 (うち 60 名は招待券を使用)

5 出店状況

下田高校	出店	いのししミートパイ、マドレーヌ、三色団子 (生活科学部) (金栄堂との共同出店)
	展示等	演奏及びパレード (吹奏楽部)
南伊豆分校	出店	栗ビスケット、学校生産物の販売
	展示等	学習成果発表展示
松崎高校	出店	桜葉パウンドケーキ、ひじきパン (家庭部)
	展示等	演奏 (吹奏楽部)、ポスター等イメージ作成 (美術部)
稲取高校	出店	オレンち伊豆パン、米粉 de ブラウニー、ぐりチョコところてん、タピ とこミルク (被服食物部)
伊豆半島高校会議所	出店	のめくる MILK

6 参加者の声

- ・お客さんから「すごいね」とか「おいしそう」とか言われて嬉しかった。(生徒)
- ・演奏終了後「演奏良かったよ。ありがとう」と言われ、とても嬉しかった。(生徒)
- ・機会があれば、また行きたい。また、参加したい。(生徒)
- ・自分たちがつくったものを売る機会は、多くないので、イベントに参加して良かった。(生徒)
- ・3年生が、部活を卒業して、1・2年生で新たにスタートする時期なので、短期の目標設定ができ、体制面や早めに自信がつく意味で大きな効果があった。(吹奏楽部顧問)
- ・天候も良く、秋バラの時期に、野外で音楽を楽しむのは、バガテル公園の魅力の一つ。高校生の演奏も、これまでの音楽イベントに引けを取らない良いものだった。(岸河津町長)

7 今後の取組みの方向性

- ・令和 2 年度以降は、1 市 5 町と協力して 3 年間の事業継続を検討する。市町へは、当日の会場運営のほか、企画段階での諸準備においても積極的な参画を要請する。
- ・物販の出店では、食品販売で起業している移住者や高校 OB、OG とのコラボなどを検討し、企画段階から様々なアイデアが生まれる場とする。
- ・ICA の賀茂地域内の研修日程と調整を行い、マルシェ会場で研修を実施することにより、高校生を対象とした活動の実践・発信の場と、夢・未来を描く場がコラボする場を創出する。

KAMOマルシェ

創意工夫したグルメ並ぶ

賀茂4高校 吹奏楽、美術展示も

賀茂地区の高校生が地元の特産品やオリジナル商品の販売を通じて職業体験する「高校生KAMOマルシェ」(賀茂地域局主催)が4日、河津バガテル公園で開かれた。商販販売の他、吹奏楽演奏も農業研究パネル展示などもあり、多くの来場者でにぎわった。



地域の食材を使った自製のご飯が並ぶ「高校生KAMOマルシェ」(河津バガテル公園)

高校生のマルシェは、出展。特産品として、昨午の「伊豆大特産品」を使ったスイーツ市(道の駅・開国下)「マリチニコ」(下田みなぎ)に合わせ、(稲取高校)販売食物めて開催された。今回、部や、インシノ肉を扱う「伊豆」を使ったトマト風味と中「下田」で開催した。華風の「パイ」(下田)「下田」の視点で地域の活性化(高生活科学部)など、に取組む「伊豆半島」地域の食材を創意工夫した「高校生」の5団体、した「グルメ」が並んだ。

伊豆半島

伊豆半島高校会議所、は、牛乳と豆乳を使った、下田高のマーチングバンド演奏、南伊豆分校の農業研究パネル展示「のめぐる牛乳」(下田高)と伊豆半島品を販売した。「のめぐる」は、下田の方言で行われ、イベントを盛り上げた。

次和也さん(下田高3年)「『のめぐる』は、お母さんの口癖で、聞いてほいほい、という感じが、名付けた。地域の名物になってほしい」と話した。

「KAMOマルシェ」4高校生徒ら出展

賀茂地区の高校生に「農業研究パネル展示」吹奏楽、KAMOマルシェ(農業部の演奏など)が行われる。河津駅から有線バス(午後3時)河津バガテル公園で開かれる。一度、食品販売は次の通り。

【稲取】オレランチ
伊豆パン、米粉deパン
ラッパン、マリチニコ
どろろまん、タマゴミルク

【下田】いのしし
ミートパイ、マトレー

【南伊豆分校】粟じ
スナック、季節の果物

【伊豆半島高校会議所】のめぐる牛乳

○KAMO マルシェ実施報告

<準備風景>



<出店風景>



<演奏風景>



令和元年 12 月 26 日

伊豆半島活性化プロジェクト(ポケモンプロジェクト)の取組について

(賀茂地域局地域課)

1 主旨・目的

賀茂地域の観光交流客数の増加や地域の活性化を目的として、賀茂地域局では、若者定住促進・賀茂キャンパスの設置・ポケモンプロジェクトの3つの柱とする伊豆半島活性化プロジェクトを立ち上げた。

ポケモンプロジェクトでは、伊豆半島の魅力を発信するツールとして、世界中で人気のある携帯ゲームアプリ『Pokémon GO』に着目し、管理・運営会社である(株)ナイアンティックと観光振興・地域振興・健康増進・防災対策で連携することとした。

2 これまでの活動

平成31年3月	ナイアンティック社を訪問
〃 4月	プロジェクトチームの編成(賀茂・東部地域局、地域振興課、美伊豆)
令和元年5月	第1回WG開催、 下田市・河津町・南伊豆町で実証実験(ポケストップ新設)
〃 7月	第2回WG開催、 伊豆半島13市町に対象を拡大→申請 (~10月)
〃 10月	賀茂地域移動知事室で知事に下田市蓮台寺周辺実証実験の説明(10/7)
〃 11月	ナイアンティック社長による知事表敬訪問(11/6)連携を確認
〃 11月	第3回WG開催、 避難所・一次避難地等をポケストップに申請中 (~12月)

3 ポケストップやジムの新設(実証実験の実施と結果)

伊豆半島では、都心部と比べ圧倒的にゲーム上のポケストップやジムの数が少ないことから、下田、河津、南伊豆において、ポケストップやジムの新設及び変更について、行政がナイアンティック社に申請して反映させるという今までにない試みを行った。

申請手続きがスムーズに行われるための、申請フォーマットや画像規格の統一、10進法による位置情報の取得、申請する箇所を歴史的な云われの表記方法、掲載できない情報の規定等を実証実験の行うことにより県とナイアンティック社で情報を共有した。

<実証実験結果>

- ・下田市 蓮台寺周辺 新設申請箇所 14ヶ所 反映 4ヶ所
- ・河津町 河津桜会場周辺 新設申請箇所 26ヶ所 反映 7ヶ所
- ・南伊豆町 入間地区(千畳敷) 新設申請箇所 19ヶ所 反映 5ヶ所

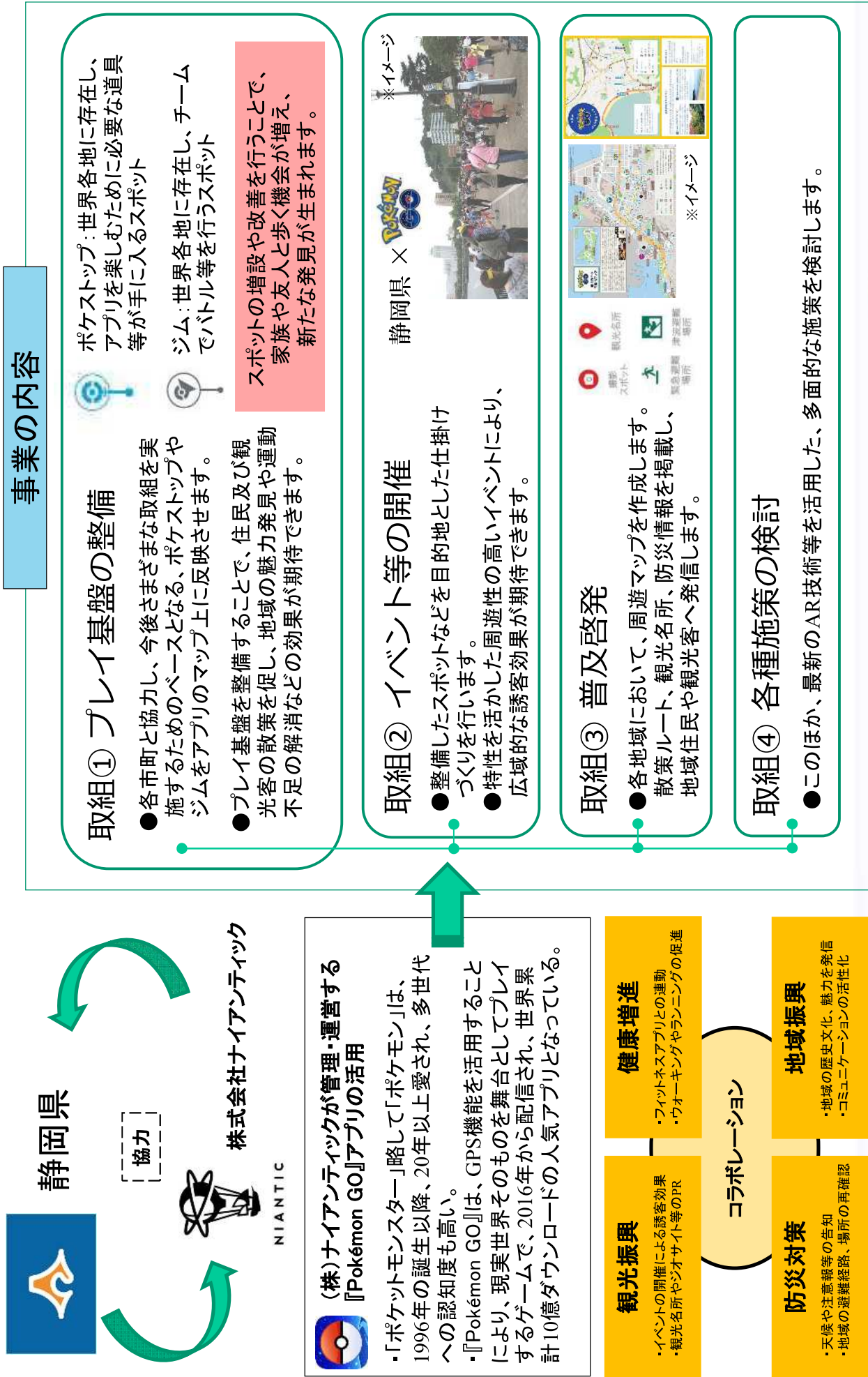


伊豆半島13市町の新規ポケストップ290か所を申請中(12/13現在)

4 今後の取組と期待される効果

	取組項目	期待される効果
観光振興 地域振興	伊豆半島全体のポケストップマップとエリアごとの周遊観光マップをセットにしたマップを作成(2020.3月目途)	観光交流客の増加と特に閑散期にイベントを実施することにより、観光交流客の平準化を図る
健康増進	ゲーム上で伊豆半島を周遊するスタンプラリーの実施(NT社と調整中)	伊豆半島全体を周遊してもらえ健康増進活動とのコラボが可能
防災対策	避難地や一時避難所をゲーム上のポケストップとして表記するよう申請する(2019.12月申請、2020年2月反映)	地元の方に加え、観光で訪れている方、一人でも多くの方に避難地や一時避難所の情報を知ってもらう

静岡県と株式会社ナイアンティックによる協力的事業の概要



（株）ナイアンティックが管理・運営する『Pokémon GO』アプリの活用

- ・「ポケットモンスター」略して「ポケモン」は、1996年の誕生以降、20年以上愛され、多世代への認知度も高い。
- ・『Pokémon GO』は、GPS機能を活用することにより、現実世界そのものを舞台としてプレイするゲームで、2016年から配信され、世界累計10億ダウンロードの人気アプリとなっている。

コラボレーション

観光振興

- ・イベントの開催による誘客効果
- ・観光名所やウェブサイト等のPR

健康増進

- ・フィットネスアプリとの連動
- ・ウォーキングやランニングの促進

防災対策

- ・天候や注意報等の告知
- ・地域の避難経路、場所の再確認

地域振興

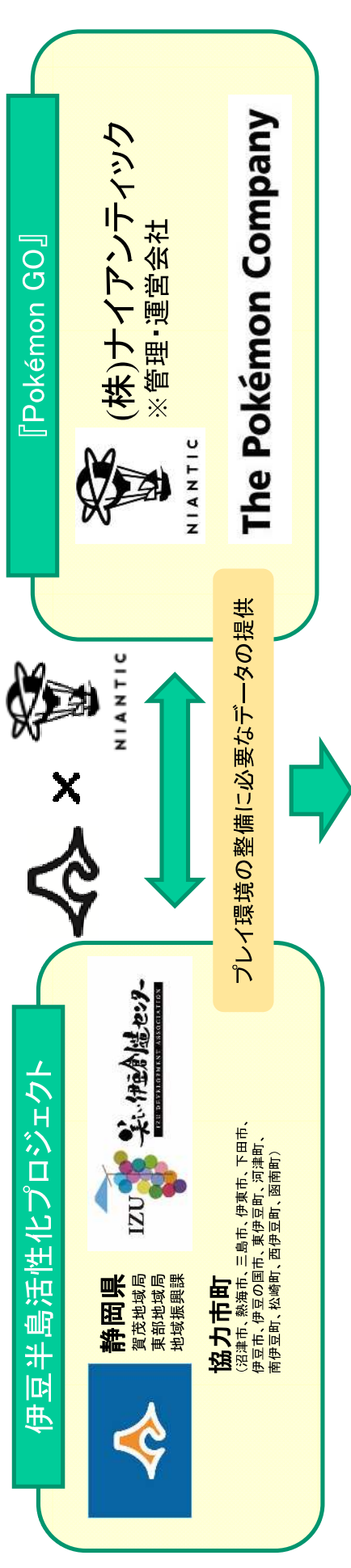
- ・地域の歴史文化、魅力を発信
- ・コミュニケーションの活性化

富国有徳の美しい“ふじのくに”

静岡県



●世界初● 伊豆半島におけるプレイ環境(Point Of Interest)の整備



伊豆半島の各地にPOI(ポケストップやジム)を整備

整備内容: 新設、写真、説明文の付与(状況に応じて既存POIの修正)

- popular spots
- history・art
- nature
- exercise

歩いて探す

接近する

アイテム獲得

ルーツを学ぶ

マップと連動

- 地域の方や観光客に知ってもらいたい場所(観光名所・歴史的建造物・アート作品・文化的価値のあるものなど)を申請・登録

人々が訪れ、観て、学んで、感じてもらう、きっかけとなる。

今回の取組では、登録に必要な「位置」や「写真」「説明」などのデータを集積し、提供を行う。

富国有徳の美しい“ふじのくに”

静岡県





下田市 蓮台寺 エリア

開国のまちである下田市には、数多くの史跡が残っています。また、温泉地としても有名で、中でも蓮台寺温泉は古くから温泉地として栄え、吉田松陰が病気を癒した訪れた温泉があるなど、温泉と歴史を同時に楽しむことができます。

お百々ルート
距離: 3.2 km 所要時間: 1時間
地図上に赤の線で描かれているおすすめルートを、Pokémon GOを楽しみながら、下田市蓮台寺の見どころも効率よく回ることができるのも楽しいルートです。

地図の読みかた

- 📍 ポケストップ 見どころ
- 🚏 ジム
- 🚗 バス停
- 🚻 トイレ
- 🚰 おすすりルート
- 🏠 緊急避難場所
- 🏪 案内所
- 🏪 コンビニ

安全に楽しむために
『Pokémon GO』を遊ぶ際の注意事項』や『Pokémon GO』トレーナーガイドライン』を改めてご確認ください。



下田市散策 お百々ポイント！

1 吉田松陰寓居処 **歴史好きにオススメ!**
精米、密航しようとして下田に行った吉田松陰が、皮膚病の治癒の為に訪れた蓮台寺温泉で、救白間身を寄せた場所。当時の姿を残しており、静岡県指定文化財となっています。



2 しだれ桃の里 **家族連れにオススメ!**
2月下旬～3月上旬にかけてしだれ桃の里祭りが開催され、蓮台寺周辺に植えられた桃や菜の花など春の花が一斉に咲き、大変見応えがあります。



3 天神神社 **歴史好きにオススメ!**
現在は地名だけとなった藤寺、蓮台寺の本尊であったとされる「大日如来坐像」が、神を祀る神社に安置されているという、少し変わったスタイルの神社です。



4 広台寺 **歴史好きにオススメ!**
1854(安政元)年に近隣が大津波に襲われた際、下田に滞在していたロシアのプロチャーチン提督と幕府の勅定奉行川路聖謨が避難していましたが、伊豆横通三十三観音の第十九番札所でもあります。



©2017 Niantic, Inc. ©2017 Pokémon. ©1995-2017 Nintendo/Creatures Inc. / GAME FREAK inc. ポケモン・Pokémonは任天堂・クリエーターズ・ゲームフリークの登録商標です。